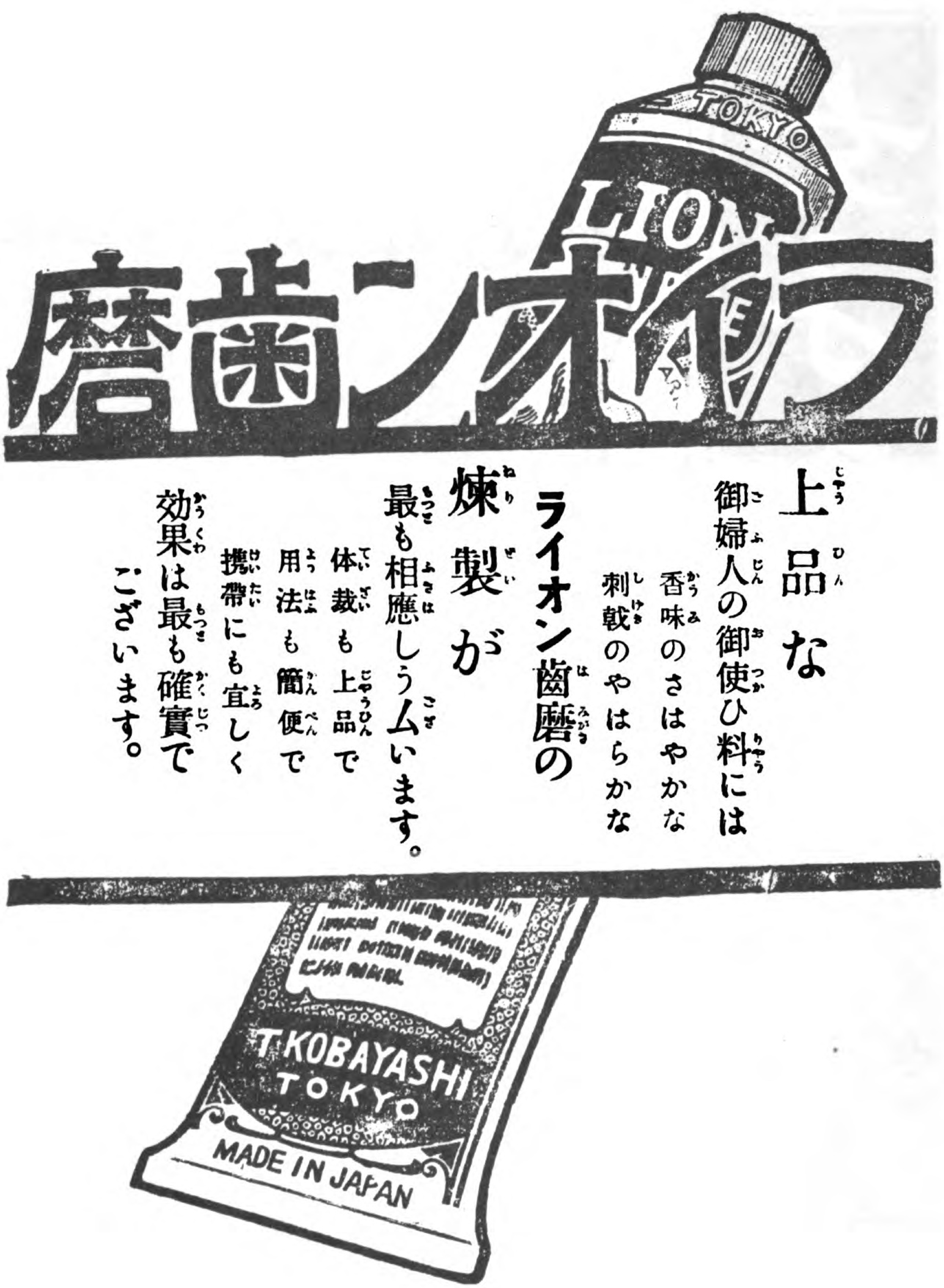
女子青年界第十五巻第三號（毎月一回一日發行）
大正七年三月一日發行　大正七年二月二十六日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十五巻
三月號




ライオン歯磨
TOKYO
LION
上品な
御婦人の御使ひ料には
香味のさはやかな
刺戟のやはらかな
ライオン歯磨の
煉製が
最も相應しう厶います。
体裁も上品で
用法も簡便で
携帯にも宜しく
効果は最も確實で
ございます。
T.KOBAYASHI
TOKYO
MADE IN JAPAN

大正七年三月號　第十五巻第三號

女子青年界目次

▼會説▲

□人形と生靈……河井道子…（一）

▼講演▲

□豊なる生命……植村正久…（五）
□國家と婦人……海老名彈正…（八）
□巴里にて病兵を看護せし思出…木下女史…（一二）
□戰時米國婦人の活動……今西糸子談…（一四）
□更正の小學校女教師……赤羽修子…（一六）
□和歌……内田賤子…（一九）
□露國近況……露婦人談　雄山百合子譯…（二〇）
□葡萄作りの話……袖山愛子譯…（二三）

▼少女欄▲

□人形の祈……（二八）
□小女欄に付て……河井道子…（二九）
□鱒の山……天馬…（四〇）
□一摑の土塊……（四二）
□彙報……本部報告……東京女子青年會……横濱基督教女子青年會……アール女學校青年會……同志社女學校……友垣……消息……會費領收……英文

日本基督教女子青年會
本部委員及幹事

委員長　井深花子　書記　三谷民子
副委員長　岡見惠子　會計　井上友子
委員
辻松子　ミセスフェールプス
長谷川喜多子　上代淑子
鈴木歌子　ミス・トリストラム
山田千代子　長尾ナミ子
ミセス・クック　ミス・ウエスト
松田道子　星野愛子
廣岡淺子　城戸順子
ミス・ゲーンス　志立タキ子
津田梅子　ミス・デントン
ミセス・クレメント　松岡鎮江
ミセス・フィッシャー　野村美智子
藤田貞子　井上レッ子
佐伯小糸子　ミス・ソール
總幹事　河井道子　幹事兼書記　ミス・ガンター
同　ミス・マシウ

館十二

生徒募集（修業年限三個年半）

新學期開始　來る四月九日——入學の好機

入學資格　滿十八歲以上の基督者、高女校卒業以上の學力、傳道志望、教役者の推薦者

規則書　二錢券封送あらば直ちに發送、課程其他詳載。

入學手續　規則書に同封せる入學願用紙に記入の上、校長宛に送附あるべし。

試驗　右掲の學歷無き向には入學試驗、基督教主義の學校其他にて聖書の素養多き向には上級編入試驗、孰れも志望によりて施行す。

横濱山手二百九番

共立女子神學校

來る四月本科及實科第一學年入學者若干名
本科第四學年以上各學年及實科第二學年補缺入學者若干名を募集す

希望のものは本校につき規則書を取寄せ（郵税貳錢封入）三月末日迄に申込むべし

●教●養●の●特●色（文部省五ヶ年程度高等女學校に準じ高等普通教育を受け殊に基督教主義により高尚なる女子の品性陶冶をなすを特色とす）

●特●權（文部省指定認定出願中不日認可の上は本科卒業生は高等の學校に入學するを得）

●發●展（市外形勝の地に目下最新式校舍建築中、來年三月移轉の筈）

大正七年一月廿二日

福岡市天神町四十四番地

私立　福岡女學校

本校は明治四十三年四月文部省より高等女學校同等以上の指定を受け專門學校への無試驗入學資格を有す

本科は修業年限五ヶ年にして學科課程は五ヶ年程度の高等女學校に同じく英語音樂は特色あり

英語專修生には一週十三時間別科生は隨意選擇したる學科を學習するを得

教師は英人三名、日本人十三名

本校は高燥開濶の土地三千餘坪を肩書の處に得て校舍を新築し十一月一日移轉す

寄宿舍には八十名以上を收容し數名の女教師起臥を同じく懇切に監督す

規則書は郵券二錢を添へ申込まば送附す

大阪市外鶴橋町（天王寺勝山道）

文部大臣指定

私立　プール女學校

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

和本

基督教とは何ぞや	石坂龜治著	.05-.02
基督の事實	シムプソン著	.40-.04
讃美歌歷史	海老澤亮著	1.0 -.08
ナザレの人	柏井園譯	1.00-.08
教師及教授法	バークレー著	.20-.04
宗教々育指針	ファウスト博士著	.4 -.03
人格不能論	田中達著	.30-.06
日々の力	根本正著	.25-1.00-.08
ヘレンケラー孃吾身の物語		.5 -.08
耶蘇の人格	フォスディック著	.60-.06
靈交錄	フォスディック著	.80-.06
朱と紫	富永德麿著	.2 -.04
神の我	エインズレー著	.15-.02
はなしの園	古谷新太郎著	.25-.04
苦痛の秘義	ブルークス著	.75-.08
信仰の勸め	武本喜代藏著	.10-.02
ベテレヘムの厩	宮川了也著	.25-.04
人を導く人	ゴルドン著	.90-.08

文具

Bible and Hymns (和洋聖書及讃美歌)

Sunday school Supplies (和洋日曜學校教材一式)

tationaries

Writig Pads	(書翰紙)
Envelopes	(封筒)
Note Books	(手帳)
Fountain Pens	(萬年筆)
Paper Fastener	(紙綴器)
Embossers	(文字浮出器)

洋書

Alexander's Hymns No. 3.	.58-.06
Alexander's Gospel Songs	.58-.06
Christ in Everyday Life…Ed. 2. Bosworth	1.35-.08
Christian Standards in Life…J. L. Murray & F. M. Harris	1.35-.08
English Grammar Simplified…J. C. Fernald	1.65-.08
Good Health…F. G. Jewett	.92-.08
Illustrative Teachings of Jesus…Ge. H. Young	2.20-.08
Life and Teachings of Jesus…Ch. F. Kent	2.90-.08
Manhood of the Master…H. E. Fosdick	1.35-.08
Meaning of Prayer…H. E. Fosdick	1.35-.08
Milton, The Poetical Works of John	.85-.06
Mrs. Browing's Complete Poetical Works	.85-.06
Music and Other Poems…H. Van Dyke	2.20-.08
New Educational Music Course… Intermediate Song Reader…J. M. McLaughlin	.74-.06
New Testament of Our Lord & Saviour Jesus Christ with Notes	.88-.06
Outlines of Composition & Rhetric	2.30-.08
Patience of God…E. A. Burroughs	.45-.06
Paul in Everyday Life…J. D. Adam	1.35-.08
Pupil and the Teacher…L. A. Weigle	1.10-.08
Schoolyard Athletics…J. E. Sullivan	.30-.04
Seaside and Wayside, No. 1…J. M. Wright	.6 -.0
Self-Reliance…D. C. Fisher	2.20-.08
Student Standards of Action…H. S. Elliott & E. Cutler	1.35-.08
Study of Child…Nature from the Kindergarten Standpoint… E. Harrison	2.30-.08
Care and Feeding of Children…J. L. Morse	1.10-.08
Care of the Sick Room…E. G. Cutler	1.10-.08
Care of the Skin…Chas. J. White	1.10-.08
Care of the Teeth…Chas. A. Brackett	1.10-.08

東京京橋區 銀座四ノ一

教文館 (KYO-BUN-KWAN)

振替一一三五七 電話京橋二五二

前付八

女子青年界　第十五巻　三月號　大正七年三月一日發行

會說

人形と生靈

河井道子

三越や白木呉服店等の窓先には、晴衣で盛裝した人物大の人形が、常に婦女子の注目を惹いて居ります。歐米都會の繁華な市に行きますと、斯る店が軒を並べ、どの店にも人形で通行人の足を止めるのであります。曾て倫敦の眞中で、或窓側に立つて中に飾られた姿を熟視して居りました。巴里流行の衣を身に付け、寶石の裝飾物が燦爛として目映い位で、其靴を見ると王公貴人の夜會にでもはくかの如き立派の物、手にせる洋傘や手提げは普通の家族の一月收入では買ひ難き立派な物、何から何迄金のかかつて居る事を現はし、此一揃はどの位の物かしら等と考へて、並べてある澤山の人形を見て居りますと何時の間にやら、十歳位とも見ゆる男兒が側に立つて、同じく眺めて居りました。見ると彼は冬の寒空に薄い破れしスートを纏ひ、靴の先よりは指が見え、頭にせる帽子は大人の幾年前に捨てしかわからぬもの、腕には新聞を抱きつゝ、震へて居るのであります。又其側に彼より二三歳年下なる女の子が同じく可憐な服裝をして立つて居ります、やゝすると二人手をつなぎ、嘻々と笑ひ何か話して雜沓せる通の中

を元氣よく潛りぬけ向側へ走つて行きました。餘りのいぢらしさに人影で見えなくなる迄、見守つて居りましたが、如何にも元氣よく小鳥の如く飛ぶ足は確に健康を現はし、二人して睦しげに語らふは、物質に替へ難き溫かい兄妹の情が表出ました。其で又氣が付き立派な人形を振り向いて見ると、一種云ふ可らざる嫌な氣持がして參りました。斯く綺羅を纏ひ溫かい店の窓に起つて、行きかふ人の注意を惹き、或者には羨望の的となつて居るとは云へ、彼の二人の貧乏な新聞賣子に比べると、實につまらぬ物であります。身動きも出來ず、笑ふ事もなく、悲しみを感ずる事もなく置かれた儘、着せられた儘である。實に着物の爲の道具であつて、見世物に過ない。成程生命なき處にはどんなものでも、價値がない等と知れきつた事ながら深く感じた事があります。其れ以來三越や白木屋等の人形を見ると、聯想が直ちに倫敦の名も知らぬ二人の可憐兒に及びます。同時に世の中には確に生命のない、見世物的な人形の樣な人が大層多いではないかと思ひます。殊に日本婦女子の中に人形的美人が澤山あり、又斯くなる事を希望して居る人が澤山にあります。

三年前に白耳義國同情會が東京婦人間に組織されし時、三月の節句前、人形展覽會を三越の階上で開催し、大家の古代人形や雛樣等を借りた事がありまし、同時に今樣の人形の着物を諸女學校に依賴して着せて賣出しました。其時に日本の人形は大抵大小と着物の地質や色合で區別し、縮緬の着物故三圓、唐縮緬なら一圓半と申した樣で、顏と云ひ着物と云ひ、よく似て居り、表情など異つたのは殆んどありませんでしたが、西洋人の出しました西洋人形は實に其とは趣が違ひ、興味深いものが澤山にありました。同じ顏して居る人形でも服裝が二つと同じのはありません。令孃姿、看護婦、夜會服に田舍娘、花嫁に女中と申す樣に皆違ひ、代價も絹、木綿で差がなく珍しいのが高價でした。假令ば看護婦は白と藍色の木綿の着物ですが、盛裝した奧樣よりは高價で

又買手も多いと申す有樣でした。小供の人形でも笑ふ顏、半泣の顏、おどけ顏、膨れ顏と表情が違ひ、着物も其れ相當に違ふのです。西洋では小供に絹布は着せませんから、人形にも絹を用ゐず毛織物に木綿と申すので、實物に近く出來て居ました。歐米の人形の進歩は戰爭前迄、著しいものでありましたが、戰爭後は尙更と想像されます。結句彼地では人形が愈々生きた人間に似る樣にと努めてゐます。然るに日本婦人間では、可成人形の樣にならんと切望で、其の方へ心を寄せて居る者がなか〳〵多い樣であります。彼等には着物は身體よりも貴重く身體は生命よりも貴いのであります。其れ故外見美しからん事をのみ心掛て、生命は病的であらふと其には一向お構ひなく、人の苦痛や困難を何で感じませう。自分さへ絹布の衣服で、硝子の中でお座敷のお飾になつて居るならば、外は嵐や木枯の暴れ狂ふとも、何かあらんと云ふ樣に、平氣の平左衞門を氣取る人が多くありますまいか。他人はいざ知らず、讀者諸君にお尋ね申しませう。私共自身はどの位衣食住以外に心を用ゐて居りますか、外部の生活、人の眼の批評が我等の生命となつては居りますまいか、正義の、人道の、進歩の、主義の戰爭などのと申す事が如何計り解されて居りませう。我等には靈的生命のある事さへ知らで居る者はありますまいか。罪と申せば法律上の罪としか思はないで、不親切、不忠實、善なた無頓着、冷淡、不眞面目、侈奢、不信、不精、不潔、不規則、皆罪である事に氣が付く者が幾人ありませうか、少しく眞面目の事を云ふと、もう片苦しいとか、五月蠅とか申して嫌がり、讀物と云へば艶物語の種類でなくば手にしないと申すは罪ある第一の證據であります、そうなると意志の何もなき處の人形に、機械仕掛けで物を云はせ、身振りをさせるのと五十歩百歩の差であります。さればとて斯る境遇を脫れ、自覺するの、覺醒をするのと申して、所謂、「人形の家」のノラの樣に自身が醒たからと云ふて周圍の責任を忘れる樣になると申すのも、取る可き道ではありません、眞に心に於て神の心を受けた者は、神の靈が內部に活躍するのであります。是のない限りは如何に働かうとか覺醒しやうとか云つても、夢の中に動く樣なものであります。

「神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ」（創世紀二ノ七）とありますが此句は眞に意味深い事を現はして居ります。土で造られた人間は、謂はゞ人形と同樣であります、それに機械をかけても生命はありません、唯神が生氣を嘘入れ給ふに依つて、其處に靈的生命が生れ出で、人間をして神に似たるものとさせるのであります。處が唯衣食住のみに齷齪し、身の嗜みとして、諸藝を修め、啓發の爲學問をするは結構な事でありますが、皆一つの機械に過ません、どうしても靈感と云ふものがなければ、人間の神性が現はれる事がないのです、此處で神が生氣を吹き入れ給ふたと云ふのでありませう。そうなると各自の個性と云ふものが發達して來ますから、人形の樣に皆よく似た顔付や、樣子、無感、無興味等のお揃ひになる事がありません。皆神の與へ給ふた特別の賜物を發揮して、しかも其中に調和を見出す事になりませう。假令ば音樂に致しましても單調は幼稚を表はします、偉大な音樂となれば、種々の異つた樂器が特種の音をたてながらも、其が皆合奏されて、其複雜の中に云に云はれぬ美しき調和を表すのであります。

一體人形的美人とは意味のない言葉であります、眞の美には生命のあるものであります、一寸見て奇麗と思ふ人も、無趣味な、無感じな無意識な人間ならば飽きずには居られません、恰も以前申した二人の貧乏な小供等が、盛裝した巴里人形よりも優つて私の心を惹いたと云ふのも、彼等に生命のある所以で御座います。此眞の生命を與へんとして基督が此世に下り貴き犧牲を拂ひ、十字架の死をさへ遂げられたと申すのは、基督敎の根本であります。又基督の與へ給ふた生命は限りなく、假令肉體は死しても其生命、永遠に成長すると云ふ事を、知らせ給ふが故に基督は復活られたのであります。死したる者が再生る事、罪ある者が潔めらるゝ事、舊きものが新しき人になる事、闇が光と變り、死が生と變る事はこれ皆復活の意味であります。

「わがこの皮この身の朽はてん後われ肉を離れて神を見ん」約百記十九ノ二六）

吾々は三月に於て受難週を迎へ、又復活祭を迎ふるに當り、土くさき生命なき人形の如き者に。神が生靈を吹入れ給はん事を祈り且求む可きであります。

講演

豊なる生命

植村正久

「我來るは羊をして生を得且豐ならしめん爲なり」
生命と云ふものは貴重なもので之がなくては何も役に立たない、又之を全うするのが大切な仕事である。其處でこの生命には淺いのもあり深いのもあり或は價値のないもの又大いなるもの色々ある。然らば如何に之を考ふべきか。吾々の眼から見て盛に立派に見えるものも神には價値なく映じ、他目からは價値なきものに見えても神には貴いものがある、吾々も神の見地から之を見る樣に心掛け度いものである。

　神の見給ふ所は精神的で外面ではない、表面善事をして居つても更に取得の無い者がある、非常に多く慈悲善行を行つて居る者でも價値なきものがある、吾々山上の垂訓を見ても神は內的方面から解いてお出になる事がわかる、凡そ人間の事は人を見るにしても自分を見るにしても精神的に心の內部へ立入つて批判しなければならない。

　又何事も其成行を考へねばならない、こんなつまらぬ小さな木と云つても之が永い間には成長して三十三間堂の棟木にもなる、即ち將來を考へる必要がある、現在獨兵の能率は非常なものであるが終局を考へなければならない。今如何に時めいて居ても、「驕る平家久しからず」である。それで基督敎は出來上つたものよりも未成品を貴ぶので今はどうでも仕上は隆々である故に幼子を貴ぶのである。基督敎

の人は無鐵砲で無作法に見えるかも知れないが現在の有樣ではなくて後に神の現はるゝ日を待たねばならぬ、基督教は目的が永遠で而かも偉大である。

生命と云ふものは結果の現れであるから現在の有樣を以て批判するのでなく終局を待たねばならぬ。現在でも基督を信ずる者の中には精神的で氣品の高い處もあるが、それを後の狀態に比べると同日の論ではない、故に生命の品定めは最後の結果であるとキリストは敎へられた。幼子を見られてこれは神の國に入るのであるから侮る可きでないと仰せられたのも此處に基づくのである。

一、神の國、昔希臘の哲學者アリストートルは眞の道德は良い國家に成立つものであるから道德と政治とは一致させねばならぬと云つた。若し吾々南洋の小島に生れたならば面白い事はあるとも生命に何か延びられぬ所がある、復雜した世の中に生れて活動するならば充分延ばして進んで行く事が出來る、善良なる國家の民とならねば思ひ存分の技倆を以て精神的の生命を發達させる事は至難である、其處で人間も廣大無限な組織永遠無窮な神の國の一員である。ポーロ、ルーテル等の偉人もこの神の國の良民である、其大なる歷史を有する偉大なる國體に一身を投じて或時は之が爲に泣き或時は之が爲に喜び其國の生きた一人となつてはどうか。唯蓄財して遊興に用ひ隱居所を建てゝ其處で死ぬと云ふ人生と神の國の一人となるのとは大差がある、植物でも日陰の草と理想的に成長する樹木とは異る樣にこの二種の人民に於ける生命の差は非常なものである。

二、神の家、吾々は神の家の者である、男やもめに蛆がわくと云ふ譬があるが孤獨者は實に氣の毒である、何故下宿屋生活は寂漠であるか孤兒院の小供は可憐であるか、溫かな家庭にあつて延ばし得る處を延ばし得ざる爲ではなからうか、神の家に於ける生命を得たる者と神の門にも家にも入らず遠方に彷徨ふ者とは大に異なつて居る。

基督の生命とは神の子たる生命である、神の家は

在天の父を頂き精神的生命の宿る深き喜び悲しみの存する所である、この神の國神の家の生命は此世に富をなし名を末代に輝かすなどとは比較にならぬ、神の使命を奉じ宮仕へする羊は善き羊飼により救はれ、自由に出入して草を得て居る、エスの云はれた生命は豊かで自由で美事なものである、この美事なる生命も寶物に於ては見られぬが基督を見て眞にわかる。若し人よき眞珠を發見したならば財を投じて其地面を購入し寶を堀出すであらう、生命を發見せし時も如何なる犠牲を拂ひても之を得べきである、商買には大奮發をする人も精神界には吝嗇である、商買は金儲をせん爲には賭博をするが精神界は賭博ではない、眞の實業でなくてはならぬ、生命を得ん爲には犠牲も敢へてする、而してより大なるものを得るのである、これが精神界の實業である。生命にも病理學上生理學上の二方面がある、今迄の話は生命の成長即ち生理的方面であるが、生命にも病身な者があり又黴菌のつく時もある故、治療の必要がある。確に吾々の生命は今覺束ない狀態にある。然るにつまらぬ言譯をし眞の神を忘れ永遠の手後れを來すのである。而し神はこの自分勝手な人間を見て如何にかして病る靈魂を救はんとの興味をもつて居らるゝ、それが基督教の神である、神は行く者を追い求め去る者を引止める爲に獨兒を與へ給ふた、それで人間が救はれるのである、十字架は神の心の現れである。此處で初めて夜が明ける。樂しきものはこれ基督教である。（文責記者）

微笑を湛へて　　熊本　青山英子

私は永い間病める主人を看病いたして居りましたが遂に去る十二月廿二日神様は病人を御召し遊ばしました神様に依り頼み凡ての事に勝ち得て餘りある私は幸福でした病人が死に望んで誠に平和に凡を感謝し神様の様に微笑を湛へて眠りし儘に永久の國へと旅行致しました事はせめてもの私の慰めで御座います一つ〳〵お與へ下さる神様の御試錬を心より喜んで御受け致し度と存じます是から後は神様は私に何をせよと仰せ下さる事かといつも考へて居ります凡ての事に堪へて一つの小さき實を結ぶ秋のある様にお祈り下さいませ別紙五圓はクリスマスの時お送り申上ぐる積りで貯蓄致して居りましたのですが不幸がありましたので今日迄見合せて居りました餘り少々ですみませんが何か善いと思召し給ふ事にお使ひ下さいますならどんなに嬉しく存じませう

國家と婦人

海老名彈正

二月十一日女子青年會館に於て國家祈禱會の際の講演大意。

今日の歐洲戰亂は主義の戰爭である事は誰しも思考する所である。即ち民本主義と獨裁主義の戰鬪であつて、一方には又軍國主義と平和主義である。この獨裁主義或は軍國主義の盛なる國及時代に於ては女は輕蔑され、厄介者視されるのが自然である故に昔は戰爭では常に女が厄介がられた者で、軍人の勢力が實に盛なものであつた。然るに今日の歐米の大勢を見ると、女がなくては戰爭が出來ない樣になつて居る。獨逸は七百萬位の男子が出軍して居るし、英國では約五百萬、佛蘭西では四五百萬程の男子が戰地にあるが、彼等の留守の間に男子の用を爲して武器製造よりあらゆる機械の製造、會社の事務、運般事業等の業を女が代つてやつて居るので、若し女子に是等の事が出來なければ、戰爭も繼續するわけには行かない。民主主義、平和主義の所には、婦人の教育と云ふものが發展し、彼等の勢力は伸進する事は明かである。之は婦人には平和が適し、それに依つて向上する樣に作られてあるのである。昔は女は陰になつて働くと云ふのであるが、今では女がどん〳〵如何なる役目をも表だつて爲す可き時代が來て居るのも、之は獨裁主義の國に起らないで、民主主義の文明國にある事を注意したいものである。

余が子供の時伯母の云つた一言を實に氣の毒に思ふた。經驗がある彼は(女に百迄家がない)と申したので、それはどうしてゞすかと尋ねると三行半の離

緣狀が出れば、何時でも出て行かねばならぬのが女の身であると云ふたので、實に女は氣の毒なものだと子供ながら感じた事がある。之は日本に於ては所謂女は三界に家なしと云ふ如く、家と云ふ事さへも近頃迄婦人にはなかつたものである。近頃になつてこそ婦人と家庭、又は新家庭などゝ云ふて、家は婦人のものゝ如くに云ふけれど、然しこれは極近頃の事である。されば國と云ふ事はどうかと云ふと今日の日本婦人は、國と云ふものは確にない、全く男子のものゝ樣であつて、女は居候の如き有樣で人々の中にこそ加はつて居るが、その以前に女は確に未國のない狀態である。斯る有樣で日本婦人は眠つて居る狀態であるが故に、到底歐米婦人と共に提携する等及びもつかぬ話である、若し此處に世界講和の爲婦人が意見を吐く事になると、列國婦人は出來るが、日本婦人には決して出來ない、歐米婦人は唯に國家と云ふよりも、遙か以上に進んで世界萬國と云ふ事に留意する程覺醒して居るに、日本の女は漸く家庭に出て來た位で、國の事を鳥渡位耳にしかけたので、世界的の事は何もわからぬのである、其處で世界的の事は基督教から出て居る事を認識しなければならない。信徒は何處に於ても實に偉大なる祈をして居る。御名をあがめさせ給へ、御國を來らせ給へと宇宙の父、萬民の父を神となして拜む、此處に其偉大なる根據がある、此御國を來らせ給へと云ふ眞意はクリスチャンでなければ、廣く解する事が出來ない、若し軍人が御國と云ふならば、之は日本の國としかとれぬ、其と同樣に普通の者には意味が極狹く解釋されるけれど、信徒の御國と云ふ言葉には世界が入つて居る、これ以上の祈はなく、此所に於て、凡が解決されて居る。斯る祈を爲す所に婦人が國家世界と云ふ樣な、大きな思想を懷いて各方面にその勢力を占る樣になると云ふのは、當然ではあるまいか。此素養あつて婦人の教育が盛になり、其實力があらはれ、社會に於て重大視される樣になるのである、故に基督教では昔から女が大勢力を占て居る事は、聖書の記事或は教會歷史に於て豐かにあらはれて居る

某英書を讀んだうちに、非常に感じた事は其著者

の云ふに、第一に我は基督者であると云ふ事を考へ、その次に、我は米人である、英人である、獨人である、日本人であると云ふ事を考へると、戰爭などはなくなると云ふた言葉である、此思想があればこそ御國を來らせ給へと云ふ祈が自然と出て來ると思ふ。數日以前に日本の國會が開かれた、初めより政治家として聞えて居る某氏に遇つて話したが、彼は日本の政治も國も惡くなるばかりで、駄目であると悲觀して居つたが、之は尤もの事であると思はれる、如何とならば、日本國では基督教國の立憲に則り、此國の憲法を拵へて行くけれど、土臺が第一違つて居るのである、例へば日本の家を壞してしまひ、其土臺其儘の上に、十階二十階の家を建てたとすれば、倒れる事は、火を覩るより明瞭で、日本の佛教或は武士道の土臺に歐米の立憲的政治を建てたからと云ふて、堅固の物の建つ筈はない、公言すれば彼の國には正義公道の上に、即ち神の國の上に立憲政治を建てたと云ふてよいが、此土臺なしに武士道根性の女子が如何に婦人の參政權を叫び、或は政治問題其他の重大なる問題に携らふ等と云ふ事は、爲し得べき事ではあるまい、基督に依つて立つに非らざれば、民主主義等を唱へる國は、却て危險である、基督教に依るの平和、人道に非らずんば駄目である、故に女子教育も基督教に依らざれば駄目であると云ふ樣になつて來る、唯外界の潮流に心をくばるに非ずして、男女の腹の底より作りかへて行かねばならぬが、之は基督教の他に、其力を持つて居る者を見出す事は出來ないのである。

基督程廣く民主主義、平和主義を唱へられた人はないのである。彼は人種、階級、男女、貧富、老若の區別なく、誰にでも神は爾等の父、爾等は兄弟姉妹であると云ふ事を以て解かれて、之を以て正義公道を明かにされたのである。此思想に養はれて居る婦人はどうしても狹き巳を脱し、心身共に發展して法律に於ても、社會改善に於ても、世界の平和に於ても、充分に意見を述べ、又之を實行し、他の者に尊敬の意を拂はせる位に進まねばならぬ。唯に陰に於て祈るのみならず、進んで公なる役目を司る位に至らん事を奬勵する意味である。

巴里にて病兵を看護せし思出

横濱萬國病院看護婦　木下女史

赤十字社から佛國に救護班を派出された時、思ひ懸けなくも其一人として選抜の榮を受けました、巴里には一年半滯在致して歸朝致しました。戰爭が斯永びくと思ひませんでしたので、本社からも屢々歸朝の御催促がありましたので、其命に從ひましたのですが、戰爭の終迄居り得ざりし事を、今更殘念に思ひます。私共の一行には、巴里市の中心に在ります、大きな建物を全部日本病院としてあてがはれました。此建物は戰爭開始迄は獨逸人の經營せるホテルで御座いました。開戰後英國の病院として、同國よりの醫師、看護婦が使用して居りましたのを、

私共の爲に、立退いて下さつたのであります、最初は丈の小さい顏の色の白からぬ日本人に、充分の事が出來るかしらと、病兵共が心配したそうでありますが、日の進むに從ひ、何とも云ひ得ない美はしい、親しい空氣が全部に滿ち渡り、働く私共は夜分一日の疲れを忘れ、翌日は何々をしやうなどゝ計畫して床に就いた程であります、此の病院には重傷患者だけ參りますので、二名の看護婦が三十名位の責任をおびたのであります、患者には日本の着物が便利であらうと思ひ、日本の赤十字社でして居る樣に、白木綿で筒袖を拵へました處、病人は大喜びで中には兩脚を切斷して居るから、着物等の必要はない兵士さへ、是非一枚くれろと云ふ樣に、評判よくなりました。私共看護婦は看護の時間以外に、其を裁縫し又着替の爲にも餘分の物をこしらへるので、

實に忙しう御座いましたが、遂には佛國の陸軍省で其をして頂く程になつた位で御座いました。患者は皆重傷の者でありますから、實に痛々しい事ばかり見て、戰爭の怖ろしさを今更感じました。窓より市街を見下しますと、體の滿足な男子は一人も見付からず、どれも繃帶をつける、撞木杖を持つて居る、誰かに手をひかれて居ると云ふ具合で、此樣に人が皆不具になると云ふ事は、怖ろしい事ではあるまいか、其に就ても戰爭等は絶對になくならねばならぬと云ふ觀念を强められました。私共に深い印象を與へたのは、彼の貴婦人方の實際的活動で御座いました。私共の病院は全部日本から備付られたので、醫師、看護婦は勿論藥、機械等も日本から持て參りました。而し食事の方は佛國の人々に責任をもつて貰ふと云ふわけで、從つて指圖をする役が、日本人でありました。其所で大勢の婦人方が、朝は五時位に起きて、平素は自働車等に乘つていらしつた方も、電車又徒歩で病院に朝の七時迄にお出でになつて食事の運搬から病人の世話を分擔されるのであります、私共は實に遠慮なくずん／＼お願申すと、何でも喜んでお働きでありました、或時などは後で何々樣は日本で云へば親王殿下に當られる位の方だと聞いて、まあ濟まなかつたと、思ふた事もありました。又七十位の貴婦人が甲斐々々しく病人の足を洗ひ、重い物の持ち運び等も、元氣よくして居られた事もあります。之が將校ならばいざ知らず、普通の兵卒でありますのに、貴婦人方がそれは／＼淚の出る程親切に看護されるのを見て、日本で日露戰爭の時の日本婦人達の働きを思ひ出で、到底及ばないと云ふ念が堪えずありました、少しよくなつた兵士等は病院に庭がないので、近所の公園へ午後から少しづゝ出す樣にしましたが、これも皆婦人が自働車に乘せる、手をひくと云ふ具合で、その慰め方は至れり盡せりであります、身動きの出來ぬ兵士には本を讀み聞かせる、手紙を書いてやる、まるで母親の樣に一同が働かれました。あの樣な働き振を日本の婦人に

もお目にかけ度ものだと、幾度思つたか知れません。又兵士の方でも、それ程親切にされるからと云ふて、我儘、横着にはならず、親しくすると云ふて亂れず、互に助け慰さめ合ふ樣子は、又深く修養した處であります、是も子供の時から男の子に、女を如何に大切に又尊敬す可きかを上下おしなべて敎へてある結果かと思はれました。私共を母と呼んで、何か手傳ふとするのでありました。足の惡い者は寢床の中で綳帶卷をしますやら、少し歩ける者は私共が二階にでも行つて、何か持つてこようとすると付て來て、其を手傳ふとするのであります。或時日本人同志が日本の物を拵へ樣として臺所で働いてゐますと、二三人の兵士が顏を出して、何か手傳はしてくれと申込み、恰度豌豆の莢をとつて居りましたら、其を手傳はしてくれ、私共は百性で家に居る時はよくそんな事をしたから等と申して、側に來て手傳ひますなど、實に親子の關係を感じました。何か面白い事でもあると、病兵が他の病兵を助けて、二人で杖つきながらニコ〳〵して出て來る處などを見ますと、戰爭の一方に人間の心の愛情の美しい事を見るのであります、或時私の引受てゐました患者一同と、記念の寫眞を撮る樣になりましたが、其時には重傷者は止を得ないから來ぬ樣にと申しました。私は日本の着物を是非着てくれと賴みますから、仕度をして出て見ますと、一人殘らず下りて來て輪をなして居るのであります、これも互に助け合つて重傷兵などを下して來たのであります、そしてまるで子供の樣に日本の袖や、帶や、草履やの問で、病院の中とは思はれぬ程賑やかで御座いました。

戰爭が劇しくなるにつれ、戰地より重傷者が續々參りますので、平癒に近い入院兵士を輕傷病院に移さねばなりません、するとどの兵士も出るのを嫌がつて、俄かに何處だかゞ痛くなつたとか、足が未だ痛み出すからとか、小供の樣に醫者に訴へに行くのであります、斯して病院を出るのを嫌がり、止を得ず出る事になると、自分の傷のよくなつたと云ふ事

を、却て悲しむ様な次第でありました、あれ程毎日私共は親しく愉快に、熱心に働けた事はありませんでした。どうぞ終迄居り度と思ひましたが、日本赤十字社の御命令故、止を得ず一年半後に歸る事になりましたが、患者と云はず、貴婦人と云はず、皆何故歸るか、待遇が惡かつたか、失禮だが日本の赤十字社が貧乏であるか、そうならば自分の財産全部を其に捧げるから、居つてくれと云はれた御婦人もありました、それでも止を得ず出立する事になりましたので其時は感謝の印として、私共一同が陸軍省から銘々の名前の彫つてある勳章を戴いて參りました。今でも尚其當時看護した兵士から、通信のある事があります、是等を思ふと一日も早くこの怖ろしい戰爭が止み、世界に眞の平和を來し度と思ひます。

戰時米國婦人の活動

今西糸子

愈々宣戰布告されますと上下擧つて國の爲に熱心に盡されるのは、米國の國柄として意外に思つた位で御座いました。あらゆる專門家はワシントンに集まつて軍事公債募集に盡力され、或る會社の重役などは一年一ドルの報酬で働かれると云ふ事であります。又徵兵の際も喜んで應募されます、昨年十一月私の出發する時分には六十萬位の兵士が出征して居ると聞きました、彼等はキャンプで馴練されて佛國に向ふのであります。

殊に現今米國の婦人の活動は實に目醒しいもので

あります、赤十字は別として國を護る會とでも申しませうか諸種の婦人會が一致して戰爭の爲に盡されます。その働きの一つとして面白く感じましたのは野菜が非常に高價で、ポテトー一つが四十錢と云ふ驚く可き暴騰でありますから之を婦人方の力でどうかしやうと云ふので、花園を皆野菜畠とされお玄關先からポテトーの畠がある樣になり、公園は芝生を皆畠とし女學生などが培養して、出來た野菜は罐詰として保存されます。又私の參りました或片田舍の敎會では、古新聞紙を固く巻いてパラピンと蠟の屑で、一時間程煮て之を燈すと一時間半程もつと云ふので、一生懸命にして居られました。又或貴婦人方は米國を去つて佛國に向ふ兵士に、船の出る前に熱いコヒーとサンドウイチを與へられます、其兵士の中にはこのコヒーの味は自分の母が拵へた味に似て居る、この味は忘れられないなどと云つて最後の別れを告げる時の情は、實に忘れられないとこの會の會長は云はれて朝早くから此所に働かれます。又婦人が自由公債募集に盡される事も非常で、婦人が堂々と演說などされ紐育市だけで婦人の賣つた公債が百萬圓もあつたと申します、斯く種々なる働きがある中に私の非常によい働きと思ひましたのは、軍人をして惡い所に遊びに行く事を防ぐ爲に、高潔なる夫人令孃方と淸き交際をさせる事は一方法と考へられ、一週間に一度小學校を借りて暇のある軍人を招いて、ダンスをされるのであります。昨年十一月に婦人が參政權を得られたと云ふのも、戰時に於ける婦人の活動に男子が感激した結果であります。

女子青年會では軍人の爲の食物料理、繃帶巻、看護の方法、語學等を敎へて居ります。又キャンプの側にホステス、ハウスと云ふのを建てられ、青年會から善き人を送り兵士の訪問者を懇切に歡待されます斯く米國婦人の一致協力さるゝ事は驚かれる斗りで、一週間の中水曜日は白パンを食べず、又一日は肉類を食べぬと云ふ樣に定めてあります、一日に節約した肉類は何萬頓になるので、それを戰地に送れば餘分に兵士に與へらるゝ事になります。食物に於て既にその樣でありますから、衣服などの節約は申すまでも御座いません。私共日本の家庭でも一月に僅一圓の節約をしても、五千の家庭が一致すれば五千圓になる譯でありませう。（文責在記者）

更生の小學校女教師

赤羽修子

（右は傳道集會にて貴山教師の感話を記したるものなり）

岩手縣の或教會に一人の感心な婦人があります。此婦人が神の御召に依り主の僕となります迄には非常な辛酸をなめ、悲慘の極に達しました、勿論只今でも普通所謂困難は充分ありませうが、此婦人は實に勇ましく主の僕として戰ひつゝ、家の爲社會の爲教會の爲に有らん限りの力を盡して居られます。

父は一軍人でありましたが非常な大酒家で、數年前休職となりました。彼女は二十歳の時、師範學校を卒業して家から一里餘り距つた村の學校に奉職する事になりました。彼女が纎弱な腕に報ゆる月々の俸給は忽ち父の酒代に代るのでした、如何に教職に在る身とは云へ、日に〳〵迫る生活難や父の浪費を見ては歎かずに居られませうか、一年二年とたつ中に杖柱と賴む母は遂に病の床について一層彼女の心を痛めました。貧と苦痛との責は終に彼女の重大な職務にも及ぼすやうになりました。家に起る苦しみの矢は放つべき的を知らず、罪ない兒童等に無暗に當り、以前の柔和な先生は、怖しい、冷たい先生と變りました。又同僚間にでも段々遠ざけられて別人扱ひをされ、校長の訓戒も何の響く處なく唯もてあまし人となりました。其結果彼女の心は常に平和をかき世を恨み、人を憤り歎聲のみ漏らすヒステリツクとも申すやうな性格となつて仕まひました。病床の母、教へられる兒童、果してどんな感じで居りました事でせうか。校長も早や詮方なく職を退く樣勸

めなければならない狀態になりましたが、然し彼女の境遇を見ては斷乎たる處置も出來ず、人事の盡し難い有様を見て思案を凝らしました結果、日頃氣嫌ひして居りました「基督敎會へ出入する様にしたらばどんなものか」と考へ及びました、同僚の一女敎師に敎會に同道するやう命令的依頼によつて勸めました。同僚の方も基督敎なるものを解して居りませんから、唯諾々と參りました事でございませう。

然るに奇しき神の御惠は、遂に彼女の盲目的な病心を開き給ふて、二回三回と度重つて神の家に出入し愛の御聲をきく中に、罪に從ふた自己、怪しい冬の寒空のやうな心の狀態を今更の様に眼前に明かに示される心地が致しました。そして敎會に出入する事は必要な糧を得る最も肝要な方法であると己れ自身に感ずるやうに成り、遂に二十六歳の時神の僕となるの決心を致して受洗しました。

救はれた彼女の働きは日に改り、家に於ては今迄の不平な態度に引かへて眞心より兩親に仕へ、殊に二人の弟妹に對する美談があります。弟や妹も早や小學校の課程を了へましたので、父母は家計の上より彼等に中等敎育を施す程の餘裕はありませんので、夫々他家へ遣はして丁稚なり奉公なりをさするより他に方法もつき兼ねて居りました、彼女は熟々考へまして、今の世に小學校卒業位では何をする事も出來ない、如何かして彼等に中等敎育だけは受けさせておき度い自分は其資力を得る爲に、一層努めて見やうと、神にも祈つて決心致しました。その一法として彼女は校長に願つて、課外に特別兒童の取扱ひをする事になりました。朝早くより夕遲く迄弛む事なく働いて疲れた様子もなく、他の見る目も驚く程で、弟は中學校に、妹は相當な女學校へ入學させて、更に甲斐〳〵しく働きつゞけて居ります。

學校に於ても常に敬遠主義をとられた彼女は全然改りまして日に代りゆく愛の敎育親切な敎授は父兄等の喜ぶ所となり慈母の如く慕はれて居ります。以前もてあまされてゐた敎師が今は、學校の名譽と

もいふべき、模範教師として敬慕されて居ります。神の御恵實に偉大ではありませんか、最後に彼女が教會に於ける活動の有樣を申上げ度いと存じます。

彼女が會員として出入しましてから未だ四年にしかなりませんが、彼女が教會に出入する樣になつてから内部の空氣が緊張して參つた由であります。彼女は前述の通り生活上の壓迫は充分受けて居りますが衣食に心を止める事は更にありません。綿服しかも古い洗ひ晒の物を身につけて意とする事なく、毎日曜日の禮拜は勿論、諸集會に出まして、常に新來者を親切にお世話して居ります。或年協同傳道が此地に開かれます時、彼女は牧師の元に若干の金を差出して傳道費の一部に當てるやうに寄附致しました。牧師は其金高が彼女の境遇に比して餘り權衡が取れないので、「是はちと多過ぎる、他に出すべき人も多いから、其半額で充分である」と申されますと彼女は、いゝえ此協同傳道のあります事は既に三箇月前から明かに判つて居りました、私は傳道の事を承つて以來臺所に竹筒を用意しておいて毎日買物の費用の少しづゝを儉約して貯へましたもので御座います。如何か御納め下さるやうにと深く申した由で御座います。此一端を以ても彼女が神の御旨に從ふ事に如何に眞劍で忠實であるかが推察出來ます。

嗚呼東北の一村に彼女は今も尚、主の十字架を負ふて日に新に慈愛深い良教師として、友情に富る親代りの姉となり、又善且つ忠なる僕として奮勵、勝利ある生活をして居られます。

屋根の上を行く

米澤　上野俊子

米澤には只今六尺餘の積雪で御座いまして殆んど毎日降ります低い家の屋根の上を歩く所も御座います内に入るのに幾段も雪の段を下りて入る樣な家も澤山あります道は美しく晴れた日の喜び何時か在學中習ひし「冬の美」と申英詩を思出し眞に嘆賞の念にうたれて居ます又或時は風吹いて眼も明けられぬ夕ぐれ道を見わけつゝ歸る時など暖い地方に御住居のお方が羨しくなります火事後の假校舍の中には雪が吹き込み誠に寒く生徒の寒さ考へては忍耐してゐます只今米澤は風雪もなか〱酷しく教師も生徒も面白い姿で登校致します生徒は十月頃から頭に綿頭巾をかぶり裾細を付足には藁靴をはきます見馴れると授業の時でも可愛いもので御座います女の先生方も皆樣此仕度で登校なさいまして學校で袴をお着けになります私は之と少し異ひますカクマキは着て參りませんかコートの上に此帽子をかぶりますから一層面白い樣子だと申されます

和歌

内田賤子

池上村に新年を迎へて

大神のふかき御恵たゝへつゝみいつを祝ふくしき年を

松蔭の岩ゐの水に心すまししづかに年を迎ふうれしさ

神の恵と人の情を身にうけてうれしき年を迎へける哉

梅花の名所なりと聞きて

梅薫る里なりと聞くうれしさにはな咲く春を今よりそまつ

本門寺内大樹の元に祈りける折

そひへたつ大樹のほとり静にて神のみそのにすむ心地せり

凡て一歩つゝ進む度思ひて

昨日より今日は進みてたゆみなく心にこめて歩みゆかばや

田舎は神の造り都會は人の造りしと云語思ひ出てゝ

ちりのちまた人の造りし都より神の造りしひなぞとをとし

折にふれて

雲の上になく音はしはしあけ雲雀すみれ咲野やすみよかるらむ

露國近況（續き）

露婦人談
雄山百合子譯

千九百十七年の九月の上旬にはペトログラードに於ける生活狀態は日々堪へ難くなつて參りました。それは食料や燃料の不足と各自の暮しの苦しさとによつてでございました。朝は私共は黒コーヒーの一杯を飲みました限りで他には何も食しませんでした、晝食としては湯煮した大きい馬鈴薯を一個きりか、さもなければ矢張湯煮したキャベツか野菜を二匙程食べました。夜食には中に少し斗りの野菜の入つて居るお湯のスープと野菜を二匙食べました。パンは各自が一日に一斤の四分の三得るのみで御座いました。氣候は追々寒くなりましたが、家々を暖める燃料が少しもありませんでした。暴徒は誰でも美服を著、麗しい帽子をかむつて居る者を殺すであらうといふ風評もありました。彼等は單に家から家へと入り込み勝手次第に何でも取りました。其頃は假政府は尙ほ權勢を持つてゐましたが、新聞紙は毎日暴徒が活動を開始するであらうといふことを記載しました。時折私共はもつと食物を得ることもありました。例へば私の働いて居りました事務所で掃除を事として居た婦人が、自分の親類でペトログラードの近くに農場を持つて居た農夫から、牛乳やバターやパン等を私の處へ持つて來て呉れました、然し勿論これは稀なことで御座いました、一度往來で一兵士が、私が飢じいであろふし、自分は要らないからと云つて、新聞紙に包んだ大きい一斤のパンを私に呉れた事が御座いました、私はお金を差し出しましたが、自分は政府の所有物を賣る事は許されて居らぬと云つて、其の金を受取りませんでした。

それで私は彼の厚意を謝して受けました。

私が幾分か餘計に食物を得る事が出來ました場合には私は食べる事が出來ませんでした。私が住んで居た所には他に三十人斗りの人が居りまして　私共は皆一所に食事をしましたので、皆の目の前で食べるのは餘り殘酷な事で御座いました、私には彼等が大變飢じい事も、他に食べる物が無いと云ふ事もよく分つて居ました、それかと云つて皆に分配する程十分にもありませんでした。誰にも見附から無い樣に私自身の室で食事をする事は好みませんでした、それで自分の室へ食物が行き渡る丈けの友達を招きまして一所に食べました。私の雇主の一英人は一年分に多量の食料を買ひ入れて置きました、そして其人の家族は芬蘭へ去つて仕舞ひましたので私が首都に居りました、最後の二週日の間毎夜食に　私　を招いて呉れました、それで一日一回は結構な食事をした譯で御座います。　私は露都を去ろふ、露國をも去ろふといふ決心をして旅行券を得るに就いてはなかなか困難がありました。

私は寫眞を二枚撮らなければなりませんでした、それから私の神經狀態が大變惡くなつてゐる、そしてそれを回復するには生活が餘り激しく無い國で暮す事が必要であるといふ醫師の證明書を貰はねばなりませんでした。その證明書の醫者の署名は町の委員に依つて確認されなければなりませんでした、それから此の證明書はペトログラードの醫務局に認められ、それから私は二人の證人を得なければなりませんでした。その人達は露西亞臣民で、決して政事上の嫌疑を受けて居ない人達でございました。此人人と私は交通局へ參りました、そして私自身と私の兩親に付いて述べ、何故私が露國を去らねばなりませんかといふ事を說明して規定通りしなければなりませんでした、それから私が露國を去つて後決して敵國へ行かぬといふ事を署名し、證人等は　私　の陳述が絕對に正しいといふ事と、私の外國に於けるあらゆる行動に對して個人として責任を持つといふ事とを特別な形式で確證せねばなりませんでした。此の事を總てした後、八日後に來る樣にと申されまし

た。其期間に交通局は私に關していろ〳〵調査をして居りました。八日後に旅行券を得ました。それから私は大藏大臣にお金交付の許可を出願ました、その許可は露國の十月二十日に受取りました、そして銀行は十月二十一日に電報爲替を發達しました、それは暴徒が假政府の轉覆に着手した丁度一日前でございました。十月十四日に私は汽車乘車券を買はふとしました。乘車券には番號の記載したのと番號の無いのとありました、番號無しのは何時でも得られました、然し無記號のでは乘車が出來るかどうか確證ませんが、記號のある切符では少くも坐席を得る資格を與へられました。記號された切符を得るには私は二日間列に立つて居なければなりませんでした。私は自分で立つて居りましたし、私共の事務所の給仕が助けても呉れました、夜になりますと出札所へ近所の家から男を連れて來て列に立たせて置きました。二日目に私はタロンといふものを得ました。それは私に乘車券を得る資格を與へる傳票の樣なもので御座いました。切符其物を得ましたのは三日目で御座いました、其日も六時間立つて居てで御座いました。私の得ましたのは露暦の十月二十九日の(十一月十一日)で御座いました。十月二十二日に暴徒は假政府に向て反對運動を始めました。彼等は國情を改善する事が出來なかつたと云つて假政府を譴責ました、後一週間は暴徒の優勢であつた限り重大な變化が起りました。彼等は五六の政府の建築物を占領しまして其中にはケレンスキーが逃げ去つたあとの冬宮も御座いました。二十九日の朝に

私は暴徒が鐵道を一部破壞したので、汽車はもう運轉してはゐないと聞きました、そして町では彼處にも此處にも發砲してゐました。私の友達は私に家から出ない樣にと忠告して呉れました。私は衣類と一番必要なものを入れた包をこしらへました、此包は私が自分で持てる丈けの大きさに致しました、なぜかと申しますと停車場迄辻馬車を雇ふ事も出來ませず汽車まで荷物を運ばせる赤帽も居りませんでしたし、荷物が往々紛失することも御座いましたから。それで私は人の助けを借りないでいゝ樣に自分で持てる丈けの僅なものを持つて行く事にして費用も面倒も節しやうと考へました。(續く)

葡萄作りの話

袖山愛子譯

(一)方伯ピラトの妻の夢

エルサレムに住む羅馬の方伯に若き妻があつた。彼女はフォスチスが其市に着く、其前夜夢を見た。其夢は、彼女が宮邸の露臺に上がつて美しい庭園を眺めて居つた。驚いた事には此美麗な庭園に何處から來たのか、此世の有りと有らゆる病人、不具者の類が集まつて居る、盲人、跛者は元より、身體中腫物に腫れ上つて居るのや、顏面のくづれた癩病患者、全身不隨の中風病など、意氣地なく地面にへたばつて、呻き苦しんで居るのだつた。

一番前に居つた者は、戶をたたき初めた、すると一人の下僕が戶口に出て來て、

「何用があつて來たのだ」と尋ねた。

「私共は神が此世に使はし給ふた。大豫言者を探して居るのです、惱める者の友なる主ナザレの耶蘇は何處に在すか知らせて下さい」下僕はいとも橫柄な、無愛想な而も乞食でも追拂ふ樣な態度で、

「大豫言者など探したつてお前等に何の役にも立ちはしないよ。ピラト樣がもう殺してしまつたのだ」

この一言を聞くや病人共は聞くに堪へない程嘆き悲しみ、齒嚙みして口惜しがつた。この有樣を見た夫人

の胸は同情にもえて、涙は自ら頬を霑し、思はず聲を上げて泣きかゝつた時に其聲で彼女の夢は破れた。
やがて再び眠ると又同じ樣な夢を見た。彼女が前の樣に露臺に上がつて前庭を見下すと、其處には狂人だの患者や惡鬼につかれた者共が群がつて居る。素裸で居る者もあれば、髮を振り亂して居る人や藁で編んだ帽子を王冠だといつて被つて居るのもあり、草を身體中にぶら下げて外套だといつて喜んで居たり、重い石を何處からか引ずつて來て黃金の塊だとニコ〳〵して居るのや、惡鬼の聲色をつかつて威張つて居るもの種種であつた。此者共が皆官邸の門前に來て戸をたゝくのだつた。

やゝ暫くしてから戸口が開いて奴隷が現はれて、

「何用あつて來たのだ」と云つた、すると皆口を揃へて、

「何處にナザレの大豫言者が居るか知らせて下さい、私共の魂を癒し、元の身體にして呉れる大豫言者の在處を」奴隷は極めて冷淡に、

「大豫言者など尋ねたつて無益だよ、とつくにピツト樣が殺して仕舞つたよ。」

これを聞いた者共は一齊に猛獸の吠える樣な聲を出して叫びはじめ、中には失望の餘り血が敷石の上にほとばしるまでに身體を引裂る者などがあつた。彼等の悲痛を見るに忍びず彼女は同情の涙にむせんだが、嘆きで夢はさめた。

暫くして又ウト〳〵と眠つて仕舞つた、そして又彼女の邸の露臺に上つて居る夢を見た。彼女は從者に取圍まれて座つて居る、彼等は鐘や大皷を奏しながら彼女の花見の宴に興を添へるのだつた。大樹は皆其白い花を彼女の衣の上に散らし、爛漫と開いた薔薇はその馥郁たる香を彼女のまわりにたゞよはした。すると何處ともなく聲が聞えて、

「欄干近く寄つて、汝の邸内に立つて待つ者共を見よ。」
今度は世の中にありとあらゆる悲惨な囚人が庭園に集つて居る、暗い土牢の中につながれて居た人、重いくさりで手足をしばられて居る人、暗い鑛内に働く坑夫、苦役する囚人、十字架刑の宣告を受けた重罪者、斬頭の言渡をされた者共、皆手に〳〵責道具を引さげて犇き合つて居る、又中には異郷の空に奴隷に賣られ懐郷の念に眼を泣き腫して居る人や、牛馬の様に追ひ使はれて惨酷な鞭に身體中血に滲んで居る人もあつた、此人々は皆聲を揃へて、
「開けて下さい〳〵。」と呼んで居る。
門番の奴隷は
「何だ」
「私共はナザレの大豫言者を尋ねて居る者です、其方は囚人を自由の身とし、奴隷を元の幸福な身體として下さる爲めに世の中に生れて來た人です。」
奴隷はさも物倦げな不親切な調子で、
「こんな處に其豫言者が居るものか、ピラト様がとうに殺して仕舞ひなされた。」
これを聞いた此等の不幸な人々は天地にも響く様な聲を張り上げて罵り呪つた、其怖しい聲に血の氣も失せて、恐怖に震へて居た、夢から覺めた彼女は床の上に起き上がつて考へた。
「もう〳〵夢は見まい、夜通起きて居てこの恐ろしい夢から逃れよう。」
然し斯く考へて居る中からもう睡魔が襲つて來て引入れられる様に睡くなると、又夢に襲れて來た、此度も前の様に露臺に上り、彼女の小さい息子も餘念なく、彼方此方を遊びまわつて居た處、子供が投げた球は

欄干から下へ轉げ落ちたので思はず階下を見ると、相變らず邸内は群衆で雜鬧して居つた、今度は傷病兵や負傷者で恐ろしい戰地から來た者と見える、滿足な身體をして居る者は一人もない、皆手のもげた人、殘酷に切り裂かれた傷口からは血がほとばしつて居る人々、其人々の血で敷石は眞赤になつて居た、此外戰爭で愛する親や良人や兄弟を失つた戰死者の遺族が犇き合つて居る、眞先に居た者は前の如く戸を叩いた、門番は出て來て戸をあけた。

『此お邸に何用があつて來たのだ』と門番は尋ねた。

『私共はナザレの豫言者を尋ねて居るのです、戰爭を禁止なされた御方、戰爭の事は噂するさへ厭はれた御方、地に平和を來し、槍を鋤に代へ銃劍をすて刈鎌をお取りになつた其豫言者の居る處を知らせて下さい』

番兵は稍急き込んだ調子で、

『うるさい奴等だなア、あんなにこれ迄度々云つたに分らないのか？、豫言者は此邸に居やしない、ピラト樣が疾くに殺して仕舞つたと云ふのに。』

門番は戸をぴつしやり閉て切つた、彼女の夢は破れた、見れば恐怖に襲はれて夢の中に寢臺から拔けて冷たい石の床上に寢て居るのだつた。夢から覺めた彼女は再びもう眠るまい、と決心したが然し又壓へつけられる樣に眠氣がさして來てどうしても堪へ難く、とう／＼また眠つて仕舞つて夢に襲はれた。

今度は彼女の良人と一しよに露臺に上がつて居た、彼女は良人に今迄見た夢の數々を語つた、良人は何馬鹿らしい、と云つて相手にしない。すると再び聲が聞えて、『邸内に群がる人々を見よ』といふのだつた、『もうこり／＼です』すると門の戸をたゝく大きな音が二三度した、彼女の良人は立つて欄干に身をよせて何事だろうと下を見下ろしたが。直に彼女に來る樣に手招ぎした。彼は下に居る人を指差して彼女に向ひ『お前

は此人を知つて居るかい」といつた。
見れば邸園内には馬に乘つて來たらしい人が大勢居る、奴隷共は一生懸命に騾馬や駱駝から荷物を下ろしたりして、何だか高貴な人が旅から着いたらしい樣子である、玄關口に主人公と見える肥つて大きな體格の氣重さうな、陰氣な顏色をした人が立つて居た、彼女は直に其人に氣が付いて良人の耳に囁いた、「彼處にお出でなさるのは羅馬皇帝では御座いませんか？　王樣に違ひありませんよ。」
「おれもそう思ふよ。」といつたが直其口に手を當てゝ下で彼等が何を言ひ合つて居るのか聞こうとした、門番は出て來た。
「何樣に御用でゐられますか？」
「朕はナザレの豫言者を尋ぬるのである、天よりの力に依つて種々奇蹟を行ふと聞く其豫言者の在處を敎へよ、朕は皇帝チバリヤスである、世にも怖ろしき難病に惱みてあらゆる名醫も見放したる此身の病を癒やすは其豫言者より外にはない、彼を尋ねて遙々と來たのである、疾く其在處を知らせ」此言葉を聞いた奴隷は敬々しく手をつかへ、
「これは／＼高貴の方とも存ぜず失禮お免し下されませ。御尋ねの人に御遇ひなさる事は六ヶ敷き事と存ぜられます。」
王樣は從者に向ひ何事か御命令になつた、從者は走り寄つて或者は數々の寶石類、或者は眞珠の鏤めた寶物、又他の者は重き黃金入の袋を持つて出た、外二人の從者は急いで立派に刺繡がしてあつて寶石の胸飾が燦然と輝いて居る法衣を皇帝の前に持つて出た。最後に從者の持ち出でた物は黃金の王冠と紫の衣であつた。
「見よ、こは朕が意である、朕は誓つて彼豫言者を朕が世繼と定め、此國を治むるの權を授けるのである、

彼は其信ずる神の旨に從つて此世を統御するであろう、只朕の願は彼が手を延べて此チバリヤス皇帝の疾病を癒されん事である。」

門衞は終に皇帝の足下にひれ伏して堪へ兼ねた樣な聲で「陛下よ、此事計りは下僕の力の及ばぬ事で御許を乞ふのみであります、其豫言者は最早此世の人ではありませぬ。ピラトが既に死刑に處したのであります」

彼女が目覺めた時にはもう夜は明けて旭の輝いた晴れた朝であつた。侍女達は甲斐々々しく彼女の着換の世話をする爲め傍に侍べつて居た。一言も發せず何事か考へ込んで居た彼女は終に侍女の一人にもう良人は起きたかどうかと尋ねた、彼は一人の罪人を取調べる爲めに出仕したと聽いて彼女は「私は一言主人に言ひ度い事があつたのに」と呟いた。侍女は、

奧樣、裁判中に旦那樣に御遇ひになるといふ事は六ケ敷い事で御座います、裁判がすみましたなら直にお知らせ致しませう」やがて彼女の化粧がすんだ時に、

「お前達の中でナザレの豫言者について聞いた事のある者が居るかえ」と彼女は尋ねた。

「ハイ〳〵知つて居る段では御座いません、ナザレの豫言者樣と云ふのは猶太人の魔術師で御座います」と侍女の一人は答へた。

「奧樣、今日に限つて其豫言者の事をお聞きになるなんて、どうかして居らつしやいますね、其豫言者ですよ、今朝猶太人が大勢で此お邸に引張つて來て旦那樣に裁判して貰うとわめいて居るのは。

若夫人は侍女等に直に其裁判所に行き、如何なる罪科に依つて豫言者は捕へられたのかたしかめて來る樣に命じた。やがて歸つて來た侍女は、

「人民達は其豫言者が自ら王樣にならうとしたといふので訴へたのであります、彼等は豫言者を十字架の刑

に處して呉れ、といつて歎願して居ります。」

夫人の顏はみる〳〵變つて、

「さあ、こうしても居られない、どうしても良人に遇つて一言いはなければならぬ、さもなければ大變な禍が今日起るかも知れない。」

「奥樣が一筆旦那樣に御書きになつたら私はその御手紙を御渡し致しませう」といつた。彼女は急いで蠟板の上に一筆書いてピラトの許に持たせて遣つた。

其日彼女に良人に遇つてゆつくり話す機會がなかつた、ピラトは裁判を終り、被告を十字架にかけるべき宣告を申渡した時には既に食事時であつた、ピラトと此晝食に丁度其時エルサレムに來て居た二三の羅馬人を招待したのであつた、御客は羅馬の軍隊の司令官ともう一人は若い敎師其外二三人居た。食卓は一向晴々しない陰氣なものだつた。ピラトの若き夫人は默り込んで元氣のない顏をして始終鬱ぎ込んで居た。客が心配して尋ねた時にピラトは事もなげにカラ〳〵と哄笑して其朝彼女が彼に遣つた書狀の趣を話し、羅馬の執政官が女の夢に依つて裁判事件を左右されるものでない、といつて彼女を嘲笑つた。彼女は柔しく、悲しげに、「本當にこれは只の夢ではありませぬ、これは神々の御告に違ひ御座いませぬ。」彼女が眞劍に悲歎の涙に咽んで居るのを見て客人達はどうかして、つまらぬ幻想を忘れさせ樣一生懸命に世間話などでまぎらかしたが、彼女の心は少しも晴れなかつた、暫くすると客の一人が急に頭を上げて叫んだ。

「一體どうしたのだろう、もうこんなに暗くなる時分かしら?」皆一齊に頭を上げて四邊を見廻した。薄暗い夕雲が四邊を閉ぢ罩めて、殊に宇宙の動物、生物にある種々な色が次第にあせて行き、萬物の色が皆同一の灰色に化して行くのが瞭然と見えた。それ處か彼等の顏の色さへも生氣を失ひ土氣色になつて見えた。「ど

うした事だろう我々は死人の様な顔色をして居ると若い教師は戰慄えながら云つた。
暗さが漸次に濃くなつて來た時に夫人の恐怖は激増して終に聲を擧げて傍憚らずよゝと泣いた。

「貴君方はこんなになつてもまだ神樣が告げて居る事が御分かりになりませんか？　罪もない聖人を刑に處したので神々が怒つて居られるのです。例へ彼は十字架上にかけられたとしても未だ息はあるのでせう。アゝ彼を十字架から下ろして下さい、直に。私は手づから彼の傷口を手當して癒やして上げ度い、何卒彼の生命を助けて下さい。」

　ピラトは高らかに笑ひながら答へた。

「お前の云ふ通りこれは神々の御告げかも知れない、然し神と雖も猶太の異端者が十字架に付けられたからといつて太陽の光を消して世の中を暗黑にする事は出來まい。」

彼が言葉を言ひ終らぬ中に四邊は暗黑世界と化し、物の黑白も分からなくなつて、彼は手近にあつた杯を毀して仕舞つた程何も見えなくなつた、彼は燈火を直ぐ持つて來いと下僕に命じた。燈火を點ぜられ、客の顔の見分けが付いた時に彼は彼等の顔色に顯はれた憂欝な有樣を見ない譯には行かなかつた。彼は忌はしげに妻に向ひ、

「一體どうしたんだ、御前はとう〳〵役にも立たぬ夢を見て此食卓の興をすつかり殺いで仕舞つた。今日はどうしても其事が氣になつて他の事が手につかぬといふのなら、お前の見たといふその夢を話したらよかろう、我々は其夢の意義を解からうぢやないか？」彼女は直に語り始めた、彼女の見た幻夢から幻夢へと語りつづけて行く中に聞いて居た客人は皆愈々嚴肅な氣分に滿たされて來た。彼等は皆手に持つ杯を忘れて眞面目に額に皺を寄せて聞き入つた、其中でいつも頻に嘲笑を溢らして、そんな馬鹿な事があるものか、夢は五臟

のわづらひだ、といつて嘯いて居たのは方伯のピラト只一人であつた。彼女が話し終つた時に若い教師は、そう云へば僕は今日皇帝の老乳母、フォスチナ一人で此町を歩いて居たのを見た、彼女は疾くに此邸に來て居なければならないのに來ないといふのは不思議だなア、して見るとこれは只の夢ぢやないなア。』

『皇帝が怖ろしい病氣に罹つて惱んで居らるゝとはかねて噂に聞いた事がある。どうしても夫人の夢は神々の御告の樣に思はれる』と司令官はいつた。

『チバリヤス王が豫言者を病の床に御召にならうとて使者を御遣はしになるといふ事はありそうな事だ』と演說家はいつた。司令官は一層嚴肅な面色でピラトに向ひ、『若し皇帝が眞に奇術師を御召になり度いといふ御心ならば其奇術師を生かして置いた方が貴公の爲めにも、又我々一同の爲めにも一層よかつたかも知れない。』するとピラトは怒聲で、

『暗くなつたので貴君達は子供にかへつたのか？ 人が聞いたら君等は皆夢判斷師や豫言者に商賣換をしたかと思ふだらう。』司令官は尙も言葉を繼ぎ、其豫言者の生命を取り止めるといふ事は例へ今直に急使を立てても、もう間に合はないかも知れない』『君等は妙な事ばかりいつて我輩の笑の種をこしらへる、若し裁判官が細君の夢に依つて一々罪人を免したならば、此世の法律とか秩序といふものは如何になるだらう』とピラトは答へた。

『そりや御最もだ、然し私がエルサレムの町でフォスチナ老婆に遇つたのは夢ぢやないのです』と若き演說家は云つた。ピラトは直に

『自分の今度の行爲に就ては皇帝に對し、充分責任を持つ考へである。』此言葉が終るか終らぬ中に大雷が落ちた樣な響がして家中が震動し、大地震が搖れた、方伯の官邸は無事だつたが暫くすると何處彼處で家が倒

れたり柱が折れたりする音が聞えた。やつと響が靜まつて人聲が聞き取れる樣になつた時にピラトは從者をよんだ。

『急いで刑場に走り、ナザレの豫言者を十字架から取り下ろす樣方伯の命令だと申傳へろ急げ。』

從者は急いで去つた。食卓を取卷いて居た人々は皆食堂から出で廊下に出た、地震の搖り返しが來た時に直に戶外に出られる樣にと身構へて居た、誰も一言も發する勇氣もない。やがて使者は歸つて來た。

『どうだ生きて居たか?』とピラトは急き込んで尋ねた。『もはや息絕れて仕舞ひました、丁度息を引取つた其瞬間にあの地震が搖れたので御座います。』

話の中に玄關の戶を力強くたゝく音が聞えた。居合せた人々はハット顏色を變へて飛びさつた。彼等は又地震が搖れたのかと思つたのだ。やがて下僕が現はれて『フォスチナ樣とサルピシャス殿が御越しになりまして、ナザレの豫言者を尋ねる爲めに御力添が願ひ度いと申して居られます。』暫くすると小聲で話し聲が聞え、衣ずれの音が廊下に聞えて來た。方伯が四邊を見廻した時には今迄彼と一所に居た客人達は何處へ行つたか影もかたちも見えなかつた禍が今にもふりかゝるかも知れない人と一しよに居て、傍杖をくつても恐ろしいと座をはづしたものと見える。

(二) 形見の手巾

程經てから老媼フォスチナは羅馬に歸り皇帝に拜謁して彼女の旅の一份四什を細かに語つた。彼女は皇帝の顏をまともに見る事は出來なかつた、彼女の留守の間に病氣は非常に興進して居た。彼女は心の中に『皇

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.

◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種



東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

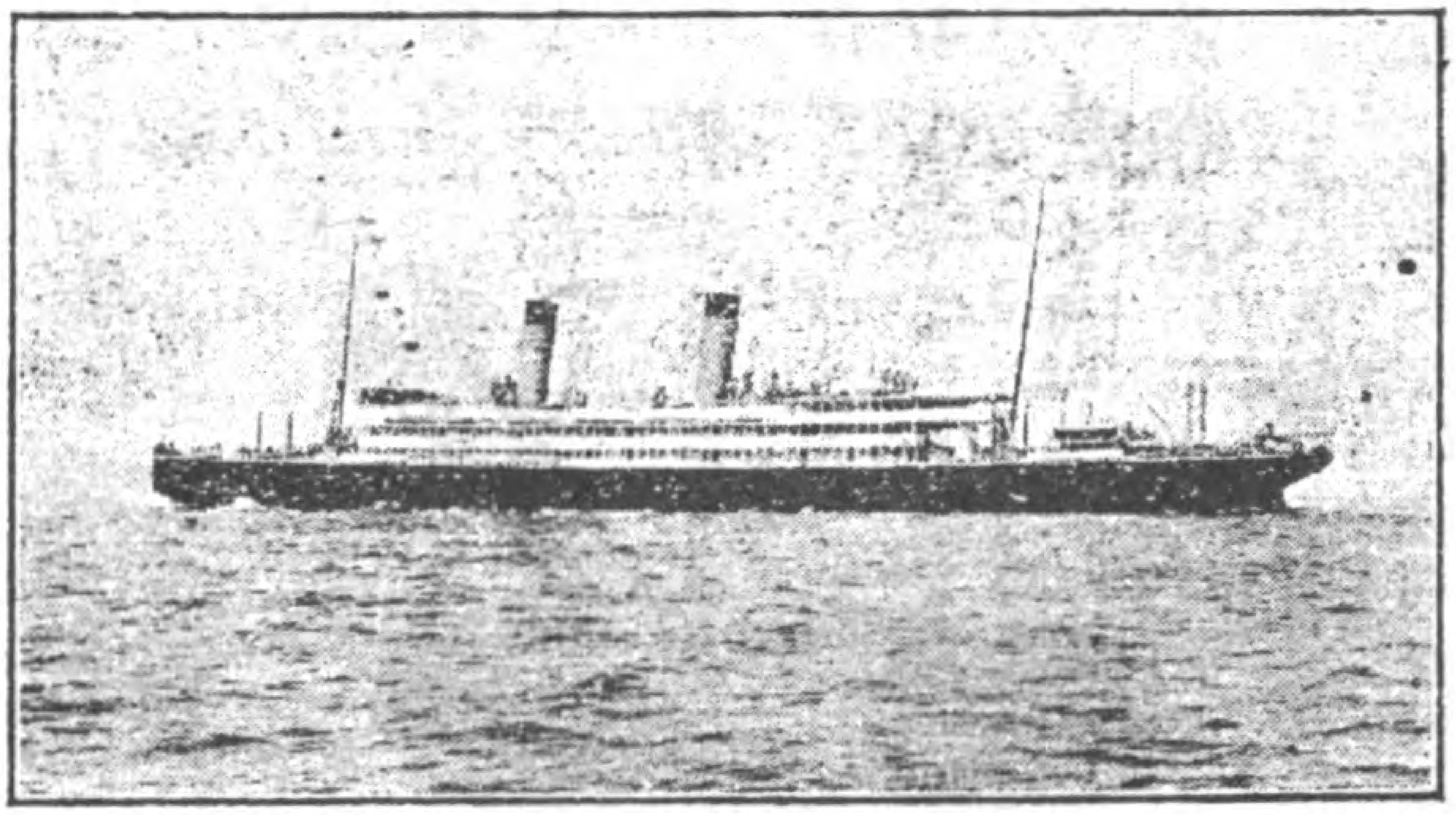
銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一、四九六一、一五三一番）

營業所 橫濱市山下町四番（電話四〇〇〇、四〇〇一、四〇〇二、四〇〇三、四〇〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング マニラ チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルデング）

北米航路（桑港、布哇、橫濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに出り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、橫濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

帝の病の癒る望の綱の切れはてたと申上げるが實に苦痛であつた。

老女は大豫言者が十字架にかけられたのは丁度彼女がエルサレムの街に着いた其同日であつたといふ事や、もう少しの事で彼女は彼を救ふ事が出來たかといふ事を話しながら終に失望のあまり涙に咽んでしまつた。皇帝は一向平氣で、

「其方はそんなに悲しいか？　羅馬で送つた生活は其方が山の奥で暮した小供時代に栽培はした魔術師や奇蹟行者に對する迷信の芽を刈り取らなかつたのか！」彼女は皇帝が少しもナザレの豫言者に癒してもらふといふ心がなかつたといふ事を見て取つた。

「陛下はなぜ無益な事だと思召したなら此年老いたフォスチナを遙に旅路にお出しなされましたか？」

「其方は朕が唯一人の友である、その友の願ひとあるからには何で朕が許諾せずに置かれやう。」

フォスチナは皇帝に愚弄されたと思つた。彼女は涙に咽びながら。

「けれども此人計りは眞實の豫言者です。私は彼の顔を見ました時に彼の目と見合はせた其瞬間に神様だと思ひました。彼を見す／＼殺しに遣つたのは私の一生の不覺です。」

「朕は其方が彼を殺しにやつてくれた事を喜ぶ、彼は謀反人で擾亂の煽動者だ。」

フォスチナは激情にかられて云ひ爭ひかけたが心を靜めて、「私はエルサレムで彼の友の幾人かに逢つて聞きましたが彼は刑に處せられる樣な罪は犯した人でない事はたしかです。」

「其樣な罪を犯さなかつたとしても、善い人ではなかつた事はたしかだ、誰が一生の中にさう度々殺されかかる人があるものか？」この皇帝の言葉に老媼は決然として、

「私は彼の力の證據を御目に掛けませう、只今私が申上げた通り私は豫言者の顔を手布で拭いて遣りました

其手布を御目にかけますが御覧になりますか？。」彼女は皇帝の前に手布を擴げた、皇帝は其手布に人間の顔がかすかに寫つて居るのを見た。

老女は感激にふるへた聲で、

「此人は私が彼を好きだといふ事を知つたのでした、どうして彼の像をのこしたか私は知りません、私の眼は涙に曇つて居りましたから、

皇帝は像を熟視した。血と涙ににじんで居る像には悲痛の影があり〳〵と見える、見る中に像がはつきりと丁度手布の上に畫かれたかと思ふ程に見えて來た、額から流るゝ血汐、いばらの冠血に塗れた髮、苦痛に打震ふ唇などを見た。傍に寄つて見れば見るほどはつきりと見えて來る。やがて影の樣に薄ぼんやりした輪廓の中から隱れた生命があるものゝ如く眼が輝いて見えて來た。其眼は受けた恐るべき苦痛を語る中にも今迄嘗て見た事もない純潔と崇高を示して居るのである、彼は椅子に倚りながら吸込まれた樣に繪を凝視した。

「これは人間か？」と彼は靜かな低い聲でいつた。

「これが普通の人？」尙もぢつと繪に見入つた。暫くすると涙は彼の雙頰を濕ほし始めた。

「悼ましやこの死、何處の人か知らねど…………。」

皇帝はフオスチナに向ひ、

「何故其方は此人を死に致した、朕が病を癒すは此人なるに。」彼は再び繪を見入つた。暫くして、

「オヽ人よ、たとへ汝我を癒さずとも我尙汝の仇を報いん。我が手は汝を奪い去りし者共の上に強く置かれるだろう。」終に彼は繪を見る身を椅子より放して其前に膝まづき、繪に向つて彼は自分の醜き顏、くづれた

手を指しながら、
「我等は皆人にして人にあらず野獸、惡魔の類である、汝をこそ眞の人間とはいふのである。」彼は床上に低く頭を垂れて、
「オヽ憐み給へ、神よ。」彼は號泣した。
「汝此世に在ませしならば其一瞥にて我は醫されたであろうに。」
フォスチナは此光景を見て恐怖れた皇帝に繪を見せなければよかつたと思つた、彼女は皇帝の悲痛に忍び兼ねて、急いで手布を奪ひ取つてしまつた。皇帝は顔を上げた。見れば何時の間にやら彼の顔は變つて居た。病氣は癒えて元の健康な身體に復したのだつた。恰かも彼の病氣は彼の心の中に寢つて居た、人類に對する輕蔑心、或は憎惡の念の中に根を持ち、且つ育てられて居た樣なものであつて、一度愛を感じ、同情の念が起るに及んで此疾病がすつかり癒やされたのであつた。
翌日チバリヤスは三人の使節を派遣した、其一人は羅馬の元老院に向かつて、何故ピラトが其職權を濫用して罪なき者を苦しめ死刑の宣告を下したかと取調を命ずるのであつた。第二の使者は葡萄作と其妻の許に、彼等の皇帝に與へし勸告を謝し且つ種々なる禮物を贈るのであつた、第三はユダヤに渡りキリストの弟子を連れ歸れと命ぜられた。かくて羅馬に基督教が宣傳されたとの言傳である。（終り）



少女欄

人形の祈

私の人形の御祈を御きゝ下さい神様よ。
正義ことは何ですか御教へ下さい願ひます。
もし御面倒なら今晩は、私へ下さる御恵を
ぬきにしても、かまいません。
最と行儀がよくなつて、仲よき人形として下さい。
どうぞ躰軀を包んでる布切を破らぬやうにして
中に詰めたる鋸屑を、出さないやうにして下さい。
アンの頭に髪毛を生やし、ベラの膝が屈折やう
何卒御願ひ申ます、私はふびんでなりません。
御面倒ではありましようが、皆に恵を願ひます、
これは私の言葉ですが、私の大事な人形が
申したつもりで神様よ、ぜひに御きゝを願ひます。

少女欄に付て

河井道子

我女子青年會支部には、少女の方も澤山あるのを私共はいつもよろこんで居ります。又同志社女學校などでも今度から少女部を組織されし由で、御喜び申上ます。其他の學校でも少女部がありますが私共本部の者が此大切な少女部に今日まで盡力申さなかつた罪を御詫び申ます。其で今度から此雑誌の一部分を少女欄として適當なるものを記載ますから、皆樣も何卒御愛讀下さいまし、又御投書があれば大歡迎をいたします。會は今まだ貧乏ですから、他の雑誌の樣に繪を挿入れたり紙數を増やすことは出來ませんが、若し皆樣が愛讀して下さると、今年中には必ず他にまけぬぐらいの立派なものになりましようから御助け下さい。

扨て此雑誌は他のものと違ひ、流行の噺や、文章の競爭には何の役にも立ちません。たゞ皆樣が如何したらば、神と人とに喜ばれるかと申すことを中心として、色々の御話をかきたいとおもひます。其故に貴女方からも時々、こんな話がよいなど丶、御註文して下さいましたらば、私共は嬉しう御座います。又此少女欄は只女子青年會の會員の爲のみでないのですから、廣く若い方々が目をお止めになる樣にして頂き度いのであります。

特に此欄のため噺をかいて下さる天馬氏は、永い間子供のために雑誌をかき、聖書物語をかき、今も尚日曜學校のため、色々と書いたり、教へたりして居らるゝ有名な先生でありますので、私共は感謝して居ります。毎月此誌に噺をかいて貰ひますから、樂みにして下さい。其他の人々が書かれる噺も面白い、意味のあるものですから、繪がなくとも御讀み下さいまし、女學校生徒が繪が無ければ本でも讀まないなどゝなれば悲しい事であります。

三月は樂みの月、苦みの月です、試驗も御元氣で立派になされて、昇級たのしみを充分に味ひなさる事をいのります。

鱈の山

天馬

ある時ボストンにお爺さんのお魚屋がありました、熱心な信者でしたから毎日まじめに祈深く、渡世をしてをりました。

或年のことでした、二人の同業者が來て

「うまい儲け口がありますよ」

といふ、お爺さん儲かると聞いて

「どんな事です………」

「それはね、市場にある鱈をみんな買占めるんですよ」

「ウム、よろしい資本を出しませう」

それから三人で鱈を殘らず買占めました、すると遽に値段が高くなつて、大儲けをしさうになりました。けれどもお爺さんは、これがボストンの貧乏な人達を困らせるのだと氣づきましたから、大層ころ苦しくなりました。

そして或朝同業者のところへ飛んでゆきました。

「あア、お爺さんドーしたんで」

「いや、私は此間の相談を廢して貰ひ度いのだ………」

「どうして、折角儲かるものを」

「いくら儲かつても之は御免だ、私は今朝、家族と一しよに家拜して、お祈しやうとすれば、神様の寶座に支へるほど鱈が山になつてゐる、そして私の祈はドーしても神樣に屆かない。太西洋の鱈をみんな貰つても、こんな苦しい思ひをしたくない、資本は出しッ放しでも良いから、私は廢しますよ」

と言ひました。

小さいヘンリー

ハモンドといふ傳道者がスコットランドに往きました時、ある家庭でお話して下さいと頼みました、

ハモンドは子供のお話が上手だつたので、小さいヘンリーといふ子供も聽きました。ハモンドは面白く、エス樣のお話をして下さいました、するとヘンリーはハモンドの手に縋り

「先生、私も信者になつてエス樣に仕へたく思ひます、私はエス樣にこの體を差上げなければならないと思ひます」

と言ひました、ハモンドは小さいヘンリーと一緒に跪きました、ヘンリーは鈴のやうな可愛い聲で

「エス樣よ、あなたは私を愛し、私のために尊い命をお棄て下さいました、私はドーしても其御親切を無にすることが出來ません。

私の罪のためにお盡し下されたあなたに、私はこの體を献しあげます」

と祈りました、その時、僅か九歳になるヘンリーの小さい心にエス樣の御愛が觸れました。ヘンリーは此時から熱心にエス樣を愛する者となり、大きくなるにつれて益々エス樣のために働く人になりました。此ヘンリーこそは、あの名高いドラモンド博士でありました。

最後の好機會

これはドラモンド博士のお話しになつたものゝ中にあつたのですが、博士の敎へてゐた大學生の一人に立派な體格の青年がありました。

けれども人の健康もあてにはならぬもの、遽に恐ろしいチブスになりまして、ある病院に送られました、しかも重體に陷つて了つたのです。

ところが幸にも病院の主治醫は熱心な信者で、よく人をキリストに導く人でしたから、ある時靜に、大學生の枕邊で、エス樣を信じなければならない事、またエス樣が罪のある我々のために如何にお盡し下されたか、その尊き十字架の御愛などに就いて語りきかせ、そして

「如何です、エス樣にお頼りなさいませんか」

と勸めました、すると大學生は何とも答へずに暫らく主治醫の顏を見てゐましたが、やがてハラ〳〵と涙をこぼし

「だつて先生、私は今が今までエス樣に背いておりました、今更ら……この死際にエス樣にお賴りし、何にの御恩返しも出來ませんならば、申譯がないぢやありませんか」

「左樣、ナルほど申譯はありません、けれどもエス樣は此場になつて悔改める樣に君の心をば導き下さつたのです、若しそれでもエス樣に賴らないならば、倍増しエス樣に背くことになるのです。今エス樣に賴る事は遲くはありません、君を待つてゐらつしやるのです」

大學生の心に此道理が解りました、彼は微かな聲をあげて

「主よ、あなたの貴き御愛を感謝いたします、十字架の御血によりて私の罪を赦して下さい」

と喜びをもて救主に縋りました。間もなく彼は死にましたが、彼の冷かな顏の上に神より來れる平和の笑が刻まれてをりました。

一摑の土塊

或る河の土堤に一摑の土塊がありました。ほんの普通の粗末なきたない土塊に過ぎませんでしたが、自分では自分の價値について、大きな考へを持ち、自分の德が認められる時期が來て、世の中に重要な地位を占める樣になるだらうと、大層な夢の樣な事を考へて居りました。

頭上の樹木は、その可愛らしい花や葉が春の光を浴びて膨み初めた頃、自分達に降つた榮光に就て囁き合ひました。森は宛も幾千の紅玉や綠玉の粉末が柔い雪となつて、地の上にかゝつて居る樣に、淡い明るい色でかゞやきました。

花は皆自分達の美しさに驚いて、微風が撫でる度に、彼等の頭を垂れ合つて申しました。

「皆さんまあ何て可愛らしくおなりでせう。貴女方はほんとに陽の光をさへ明るくおさせになります」河は新しい力を樂しみ、水の流れの合唱に歡喜しながら、氷の足枷から脫け出た事や、雪を被つた山々から素敏く飛び出した事や、これから先流れて行つて粉屋の車を廻す事や、大きな船を海まで浮べて行くなどと云ふ、大きな仕事を兩岸の草や樹に囁きながら、美妙な樂を奏でました。

然し土塊は自分の床でぢつと眼を閉じて、時節を待つて居たのでした。そして高い大きな望を持つて自分を慰めて居りました。

「私の時節はいまに來る、私は永久に埋もれて居る樣に造られてゐはしない。適當な時さへ來れば、榮光と義と名譽とが私の上にも降るだらう」と斯う考へてゐたのでした。

遂に或日土塊が長い〳〵日の間坐つて居つた其場所から掬上げられた事を感じました。鐵で作つた扁平い刃が自分の身體の下を通つて全身をひどく持ち上げ、他の土塊と諸共に車の中に投げ込みました。そして其車に乘つて凹凸の石だらけらしい道を遠い所に運ばれましたが、土塊は怖いとも思はず又失望もしませんでした。

「之は必要な事なのだ、榮光に達する道は何時も險しい。私も今、世に重要な地位を占める道程に居るのだ」と斯う思ひましたから。

けれども此苦しい旅はその後に續いた苦惱や難澁に比べれば何でもない事なのでした。土塊は車から出された後槽に入れられ、混ぜたり、捏ねたり、搔き廻したり、蹈み付けたり、殆ど堪え難い苦しい思ひをさせられましたが、斯んな苦しい事の中から確に何か大層立派な、高尙な事が出て來るに違ひないと云ふ考へに慰さめられて居りました。そして只何時迄も耐え忍んで待つて居れば、驚く樣な立派な報酬がきつと來ると云ふ事を確く信じて居りました。

それから後は又恐ろしい勢ひで、廻轉して居る車の上に載せられ、粉微塵になつて仕舞ふのではないか

と思はれる位に、何千回となく廻されました。そしてそんなに回轉て居る間にも、或不思議な力が自分を壓しつけ、或新らしい形に作り上げてゐるのを感じないでは居られませんでした。それから見た事もない手が自分を爐の中に投げ込み、周圍に火を點けますと、劇しい貫徹す樣な焔は、本統に河の土堤に嘗て宿つた、夏のすべての炎熱よりも熱く自分を熾きました。けれども土塊は華々しい未來を信じて、氣を張つて是等の試練を堪忍致しました。

「こんな苦しみを受けるからには、私は確に何か非常に素晴しいものにされるのだらう、多分お寺の裝飾かそれとも王樣の卓子の高貴な花瓶に造られるだらう」と心ひそかに考へました。

終に火熱の苦しみも終つて、土塊は爐から取り出されました。そして青い空の下の外氣の中で板の上に載せられました。苦しい時節も通り過ぎて、報酬の時は間近くなりました。此時板のすぐ側に淺い汚い水溜がありましたが、それは何でも其上に來る物の影を公平に映して居りました。土塊は板から取あげられます時に、初めて自分の變つて新しい形が其水に映るのを見ました。が、まあ彼のすべての忍耐と苦難の報酬、今迄の長い間の辛抱と希望の果は、曲もない、無骨な赤い醜い普通の花鉢であつたのでした。何の輝も美も名譽もなく造られましたので、迚も王樣の御殿や立派な宮廷に用ゐられる運命は廻つて來ないと感じました。

「何故この樣に私をお造りなさつたか」と見も知らぬ製造人につぶやいても見ました。

それから後は幾日も〳〵脹面して、不滿の中に過しましたが、やがての事に植木師は此花鉢に土を充め何やら粗末な、褐色の乾からびた樣なものを土の眞中に押し込めました、土塊はこの新しい恥辱に反抗して、

「これは恥辱の最も甚しいものだ、土や芥を充められるなんて、確に私は失敗であつた」と叫びました、けれども直ちに鉢は溫室に入れられ、そこで暖

い太陽と水とで培はれます中に、日一日と時は經つて遂に目醒しい活動の時は來ました、即ち土鉢は其身體の中で何か動き初めた事を感じました、それは一つの、新しい希望の萌芽であつたので、無智な花鉢はこの新しい希望が何を語るのかも知りませんでした、或日土塊は溫室から取あげられて、大きな教會へ持つて行かれ長い間の土塊の夢は此處に實現される事になりました。それは世にも立派な役割で崇高な音樂はその上を流れ、周圍は花をもてかこまれて居ましたが、それが何の爲めかと云ふ事は花鉢にはまだ分りませんので、他の土塊の鉢に小さな聲で訊ねました。



「何故人々は此處へ私を据ゑたのでせう、何故誰でもが私共の方を見るのでせう」

他の鉢は答へました。

「御存じないのですか、貴方は百合の王笏をもつて飾られて御出です。其花瓣は雪の樣に白く、其蕊は純金の樣です、花は世にも驚かれるばかり美しいものですから人々はあなたの方を見るのです。そしてその根は貴方の心にありますもの」土塊は例へ泥鉢がなつたとは云へそんな大きな寶を藏して居りましたので、大層滿足に思ひ、そして靜かにその造り主に感謝しました。

彙報

本部報告　中央委員會は二月九日會館にて開かれ、出席せる日本人及外國人委員は井澤花子、辻松子、井上レツ子、ミセス、フイツシヤミス、クレメント、ミセス、クツク、印度よりの來客一名と幹事全部なりき。

東京、横濱、大阪、各支部の報告ありき、幹事よりの事務事業一般の報告の後、今回新たに赴任せし體育主任ミス、ホンダの紹介ありたり、同氏の意見は本會に於て體操教師養成所を設け、尚女子及兒童の健康を助けんが爲適當なる途を講ずる事等なり、尚四月に米國より赴任するミスタヒン幹事の手紙を紹介し又黒田はる子姉の横濱支部幹事としての報告もありたり。

會計報告　大正六年十月より大正七年二月迄四ヶ月間の收支如左

收入の部　越高金二百六十四圓九十八錢也
　　　　　收入金一千五百八十三圓八十四錢也
　　合計　金一千八百四十八圓八十二錢也

支出の部　支出金一千三百三十一圓也
　　殘高　金五百十七圓八十二錢也

尚四月より幹事養成所設立につき協議ありしが、こは最初より多數の候補者を收容する便宜も未だ無き事故、申込にあるに從ひ適當なる個人教育を施す事に可決す。

夏季修養會の爲指定委員に其責托し、成可く早く場所等の撰定を促す事とす。

雜誌には新たに辻松子夫人、松岡鎮技夫人等を擧げて發展の途を研究し材料等の改良を謀る事に決す。其他新用件を幹事指定委員に依頼する事に可決す。

東京女子青年會　二月二日(土)　午後二時、會員の親睦會を開く。共同遊戲數番の後中姉西より節分豆蒔のいはれ話あり、後豆及び學生宗饗の御馳走ありたり。來會者八十名。

二月九日(土)　午後七時、女中慰勞會を開く。旅行者之友部の世話にて奉公中の者又會員中より來りたる者等併せて卅五六名出席す。委員平山信子夫人の御主人より經驗と同情ある御話あり、茶菓の後安藤坂神田兩寄宿舍生有志等の餘興二三ありて閉會す。當夜の出席者中にて四ヶ年同じ主人に仕へて辛棒し毎年此催を樂しみに期待し居る意を述べ感謝して去りたり。

二月十六日(土)　午後二時、本會舊副會長今西糸子夫人の歸朝歡迎懇談會を開く。當日同夫人は時局に於る米國婦人のめざましき活動振につき見聞されし事ども語られたり。渡邊夫人(フインランド國人)の獨唱二三ありてより茶菓に移る。又出席されし河井道子先生は今回派遣せられし慰問使につき婦人側よりも大なる同情を表する必要ありとて奬勵の言葉あり、皆一同大に刺戟されたり

二月より西洋料理十回講習會二組を新に開始す。いづれも滿員にて且好評判を得たり。普通水曜の組も盛況にて主任パタツン教師は白の割烹着にて活動しつゝあり。

二月に入りてミスペーヂ、ミス、カフマン、及び加藤高子の諸幹事は會員の親交並に會の事業紹介の目的には新當の友人十二名餘を訪問せり。猶今後も盛に繼續したき希望なり。

二月十一日紀元節には東京市婦人教役者の主催にて國家新禱會を本會館にて開く。講師海老名彈正先生、婦人と國家に就きての奬勵、又河井道子先生の感話等ありて後熱心なる新禱會となり時間の經をも知らざる程なき。出席者九十名餘。

二月十六日(土)午後七時、基督教傳道義會の主催にて第二回基督教家庭講演會を開く。塚本はま子女史の家庭教育、長尾半平君の宗教と教育につき御講話あり、後ミス、シエレシスキーのピヤノ、ミスアンダーソンの獨唱、ミス、マギーのヴアイオリン等にて閉會、出

二百名余にて盛會なる催なりき。(二月廿日記す)

横濱基督教女子青年會 一月廿九日午後平沼女學校の上級生を招待致し、本會館で茶話會を開きました。來會者は二十名程で御座いましたが、遊び、語り、且唱ひなど致して樂しき半日を過しました。ミッションスクールとは違ひ普通の女學校には、横濱の女子青年會が何處にあるのやら、又甚だしきに至つては其名稱さへも耳に遊ばした事のないお方も大分おありの樣で御座いますから、本會では種々なる方法で、種々なる方面の、人樣に興味をお持たせして知らず識らずの中に、本會の事業其ものでも興味を持つて戴く樣にと努力致し、特に今回「平沼クラブ」を組織致して平沼女學校の諸姉と親睦を計り、且つ御助力を戴くつもりで御座います、毎月第三土曜日を右のクラブ日と定めて、追い〳〵に色々な働きを致し度い考で御座います。三十一日は午後六時半より英語談話會を催しました御出席なされた方々は三十名足らずで御座いましたが、講堂の「ドア」を入つたが最後もう日本語を話してはなりませんでした、食後は最近露西亞の騷動から逃れて、日本へ來られた一米夫人の露西亞土産話を面白く承りました。毎月第三木曜日に來會を約して散會致しました。

二月四日午後二時に社交會を致しました、出席された奥樣方は略三十名程で御座いましだ、最近フランスから歸朝された赤十字の看護婦木下女史を聽して彼地で見聞された事から、貴賤貧富の別なく上下一致して國家の爲に、自己を忘れて活動されて居る實例などを承りました上に、河井先生の支那旅行談をも拜聽出來まして一同滿足いたして散會致しました。

プール女學校青年會 大正六年十二月十三日祈りにより盛大なる落成式を終りました。鶴橋の光として神樣より與へられたる我愛するプール女學校の式は九時より開かれました。朝まだきより空はコバルト色に晴れ渡りどし〳〵と數多の人々が緑に包まれたる新しい校舍にお集り下さいまして、讃美歌やら校歌やらで賑かに、又先生方の御話又來賓方の祝詞等眞に盛大にいたされました。午後一時頃迄校舍を一々御案内致しました。皆樣方は餘り勉强に好地なのと建物の立派に完全して居るに驚歎の御樣子でございました、午後二時より監督又多くの牧師方御臨席下さいまして、獻に奉堂式を行ひました。私等は唯々この美しい景色の中に立派な大きい校舍を與へられて感謝の外はございません。けれども唯喜ぶ許りではたりません、この神より與へられた學びの庭でいそしむ私等は一層神樣によく仕へ、近きは鶴橋の光遠くは大阪の光となつて、主がお與へになつた御心を全うせん爲めに皆樣のお祈を御願ひ申ます。

同志社女學校 先日御送り下され候學生祈禱日趣意書や聯合軍慰問使派遣の寄附募集趣意書、たしかに落手致し祈禱日を意味深き日となさんと念じ居候。尚又寄附金募集にも賢き法の敎へられん事を祈り居候。

少女部は御かげ樣にて申分なき指導者を得て日々に進歩いたし候、指導者の信仰と其人格とに一番年少の會員諸姉の心が動いて居る事を見て感謝致候少女部の皆に聯合軍慰問使の手を經て戰上の人々に綿繃帶をかいて送る事を申傳へ候處ニコ〳〵顏で引受け胸を打ち大

喜びで跳ねながら「自分の名前も書いていゝの」などゝ尋ね誠に可愛らしく候、かくも清い心が美しき齢となり表はるゝ事と信じ居り候

役員の改選があり候間新役員を御紹介申上候。

會　長　湯淺　春代（英文科一年）　副會長　千貫　はる（家政科一年）

會計　今　井　靜（英文科一年）　會　計　原田みさを（普通科四年）

會計　佐　伯　・　忠（普通科三年）　書　記　佐々木あい（普通科四年）

書　記　淺野　のぶ（普通科四年）

私共當役員は殘る僅の日を當支部の爲に盡す事もあらばと求めかつ祈つて居り候、凡てを新役員に御渡しするは嬉しいには相違なきも又一方には何となく寂寥を感じ候、皆々樣の上に天恩裕ならん人を祈候。

音樂部　毎夕練習をなし日曜日の禮拜を助けまた其他の集會を音樂を以て助け居れり。

集會部　各種の集會及其主意、司會者、講演者等につき共に相謀り居れり。

文學部　仕事會に本を讀む人をおくり、會員より感想、作文を集めて回覽雜誌を作る。

社交部　集會の接待、通信其他交際の方面に勵む。

仕事部　毎週二時間仕事會を開き共に會の爲に製作をなせり適當なる場所なきを悲しむ。

聖書研究部　牧師に御指導を仰ぎ晝前を互に研究す。

函館遺愛女學校青年會　今度各役員には生徒を擧ぐる事に決定し二月七日左の諸姉を選擧す。

會　長　和　田　久　野　　副會長　猿　川　ひ　で

記錄書記　下　田　幸　　會　計　成　澤　た　へ

小川ゆきえ

通信書記　倉　澤　ひ　で

但し副會長と會計成澤たへ姉は教師なれども諸事の都合上お頼みせり、今度益々會の隆盛に赴く樣に盡力し以て神の御事業の一端をお助けせんと努力しつゝあり。

友　垣

新聞を賣つた金です　東　京　外山信子（寶松宮）

青年會の皆樣には今頃何をしてお出になるかしらお晝は私一人で食事を致して居ります時にあの賑かな食卓を思ひ出してはお辨當が欲しくなります青年會の晝御飯はどんな不味ひ物でも甘味しくさせる空氣がある樣です食卓の時のみでなくあの建物に入ると一種親しい溫い感があつてエス樣が私共を迎へて下さる樣な氣が致します今迄働いて居た時には毎日忙がしくがたがた致しましたが外から入つて見ると會の働き樣樂しさうな又希望に滿ちた働はないと思ひ又お手傳ひ致し度なりました家庭の仕事にも隨分樂しみはありますがミスで居た時の樣に氣樂には居られません四方八方に目をくばるのも中々骨の折れる事です未來の事も思へば唯毎日小さな事に追はれては居られません出來るならば行末孤兒收容所の如きものを起し度と相談致しましたから今から其爲お金を儉約致して居ります誠に失禮ですがこの二圓は先日新聞を賣つたお金ですから何かにお用ひ下さいまし新世帶の私共は一錢の事にも考へないと不可と存じます只今私の室を掃除致して居りますお机上の「女子青年界」に目がとまつて其中途で一筆走らせました女子青年界は私の無二の友です暇のある時

には幾度も讀み返して居ります其につけても隨分お骨の折れる事と丁度發行間際の事を思ひ出しては御樣子を偲んで居ります原稿書、廣告取、住所書殊にも骨の折れる校正をたつた二人位の手でなさる御勞力又不足まで出して私共の爲に發行して下さる御親切を思へばあの薄い雜誌も中々通一遍で讀み下す事は出來ません其お骨折を感謝すると共に會員があの雜誌の爲に御助力致さればならぬ事を思はせられます私の出來る事でしたら何でも致し度と存じますから御申附下さいます樣に願ひます。

四國　ストラネス操

聖なるかな主の御業聖なるかな主の御いつくしみと私は心の底から主をほめまつる事が毎朝の第一の私の言葉である眞の信者の一人のうちに數へらるゝ者となりました此喜びと滿足を久しく御無音に打過して居りましたお詫びに差上度う御座います七八年前から希望致して居りながら安々と信仰に入れなく常に私の心の缺陷に苦しんで居りました私が願はぬ且望まぬこの德島に只一人親しき人達からはなれて送られました事は私には苦しい事で御座いましたが神樣は私と云ふ者をよく御存じで種々なる方法で順々と私を信仰の門にお導き下さいました昨年の夏私の心のなやみは極度に達し既に死を覺悟致しました程に私は人生の問題につきて苦しみましたが遂に全く己を卑うせられ私は生れかはりし人となり皆々樣方のあつきお祈に主は答へ給ひまして私にも新の力を與へられました眞に不思議な事で御座います此頃は心からうれしい希望に滿ちた一刻〳〵を過す事が出來ますやうになりました初めて味ふ旅の只一人の新年を迎へるのでありましたが今迄になき嬉しき元旦を迎へました近い内にバプテスマを受け度と主のおゆるしを待つて居ります。

消息

○ミス、マシウ　大阪支部應援の爲二月廿二日出張

○河井道子　三月上旬關西に赴く歸京は下旬なるべし

○ミス、クルート　紐育女子青年會本部にて外國部に永年働かれし同姉は一月六日同地にて御結婚の由米國に留學せし日本女學生は殆んど同女史の世話にあづからざりし者なき程日本人の恩人なり

○廣岡かめ子夫人　麻布區材木町六十二番地の新築に二月中に御轉宅の由

○津田梅子　永らく御病氣御保養中なりし同先生は近頃御快方の由欣喜に堪えず

○塚本はま子　青山女學院敎頭の同姉は外村義郞氏の事業の爲長尾半平氏と共に女子青年會館にて家庭敎育につき講演されたり

○田川いくよ夫人　代議士田川大吉郞氏夫人いくよ姉は二月十一日御永眠葬儀は富士見町敎會にて執行御遺族に對し滿腔の同情を捧ぐ

○青山英子　熊本にて昨年十二月中御主人御死去幸にも英子夫人は固き信仰のうちにあらせらる

○聯合軍慰問使　同事業を應援せん爲近き中に婦人應援會組織せらるべし

○東京女子大學　同校につき問合せは小石川區大塚阪下町安井哲子

姉に宛てらる可し。入學試驗は所々にて三月上旬執行詳細は女子青年界新年號にあり

○東京婦人救役者會　二月十一日本會館にて同會主催國家祈禱會を開き海老名先生の講演ありたり

○奨學基音樂會　二月十一日の音樂會は大成功にて純益金一千圓以上なりし由

○寄附金會友會費雜誌代及び萬國女子青年會本部負擔金領收報告（本部）

○寄附金

○金五圓也　ミス、プゼル

○金五圓也　青山英子

○金參圓也　捜眞女學校

○金五圓也　横濱女子青年會

○金參圓也　デーネス、ナップ

○金拾參圓也　共立女學校女子青年會

○金貳圓也　ミセス、デビス

（右女子青年會本部事業負擔金）

○金參圓八拾錢也　共立女學校女子青年會

（萬國女子青年會本部事業負擔金）

○會費

○金壹圓也

湯山きみの（大正七ノ二―八ノ一）　松本　さき（大正七ノ一―七ノ十二）

長非きみゑ（大正七ノ一―七ノ十二）　濟岡きみゑ（大正七ノ一―七ノ十二）

山崎　文子（大正七ノ一―七ノ十二）　角谷　順子（大正六ノ一―六ノ十二）

阿部　つや（大正六ノ十一―七ノ十）　鈴木千代の（大正七ノ二―八ノ一）

山田きよの（大正七ノ四―八ノ三）　上野　とし（大正七ノ一―七ノ十二）

○金貳圓也

池田　たつ（大正七ノ四―八ノ三）　佐山　文代（大正六ノ五―七ノ四）

加藤　咲子（大正六ノ十―七ノ九）　ミス、モンク（大正六ノ一―七ノ九）

○金拾圓也　ミス、ウヰリアムス（大正七ノ二―八ノ一）

○雜誌代

○金八拾錢也

藤堂　鏗子（大正七ノ十―八ノ九）　池田　ふじ（大正七ノ二―八ノ一）

渡邊　千菊（大正七ノ十―八ノ九）　八島　いね（大正七ノ四―八ノ三）

佐久間よし（大正七ノ四―八ノ三）　上村　孝子（大正七ノ二―八ノ一）

上野　秀子（大正七ノ二―八ノ一）　芝　みつの（大正八ノ四―九ノ三）

齋藤　千代（大正七ノ四―八ノ三）　織川　貞子（大正七ノ三―八ノ三）

○金壹圓六拾錢

内田しづ子（大正七ノ三―九ノ二）　里村　福與（大正七ノ四―九ノ三）

○金四圓也　（同志社女學校（大正七年五―八ノ四、五部代）

○金四圓七拾貳錢也　横濱女子青年會（大正七年一月號五十九部代）

○金拾六圓也　プール女學校女子青年會（大正七年度二十部代）

電話と振替

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

電話本局五九八番

振替東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回揭載
一頁	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年二月廿八日印刷納本
大正七年三月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

tion. Miss Kawai and Miss Mathew will spend much time in Osaka during March, and thay also hope to make a tour of Hiroshima ken with Miss Gaines in the interest of our emigration work. It will be remembered that Hiroshima sends more emigrants abroad than any other province in Japan. Most of these emigrants embark from Kobe and with the opening of our work in that City, such a trip as is now being planned through the ken should enable the association to get in touch with many girls before they leave Japan.

The address of the Osaka association has been changed and is now 279 Higashi Umeda-cho, Kita ku. Miss Emerson, Miss Hard. Miss Hosono and Miss Matsui will gladly welcome any friends who will pay them a visit. It is hoped that the association will not have to move again soon.

Miss Emerson expects to sail for America on May 18th. The association family will be glad to welcome her back to Japan in the fall of 1918, and although she will not be one of our regular secretaries, she will be a great strength to our association in Kyoto. Miss Kaufman will probably go to America on the same steamer with Miss Emerson to spend the summer with her family.

The Young Men's Christian Association has sent a delegation of three secretaaies to the front to take the greetings not only of the association, but also of the whole of Japan to the soldiers. Other delegates will be sent later. Their Majesties highly approved of this project and made a grant of Y.10.000, toward the expenses. The Y. M. C. A. Committee needs Y.100,000, so they have asked the women to form an auxilliary. The Y. W. C. A., the W. C. T. U. and some seven other prominent secular women's organizations of Tokyo, such as the Ladies' Patriotic Association have been approached. The various women's organizations concerned will meet on the 26th to see what is best for them to do.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV | FEBRUARY, 1918 | NUMBER 3

The regular meeting of the National Committee was held on February 9 at 14 Kita Jimbocho. The Summer Conference Committee, with Mr. Matsu Tsuji as Chairman, was requested to meet immediately to make arrangements for the summer conferences for 1918. (This Committee met the following Friday, and decided to hold two conferences, one in Sendai, July 23-30, and if possible one in Kyoto, July 16-23.)

A training course for Japanese secretaries for association work will be started in April.

Miss Helen Topping and Miss Hazel Verry are expected from America in April to take up association work. Miss Topping is the daughter of Mr. and Mrs. H. Topping of the Baptist mission in Morioka. Miss Topping is well know in Japan and has many friends who will be glad to welcome her back. For the past few years she has been engaged in immigration work in connection with the Y. W. C. A. on the Pacific Coast. Her knowledge of the Japanese language and Japanese people makes her a most valuable addition to our staff.

The following assignment of secretaries was made by the Committee:

Osaka: Miss Hard, General; Miss Crawford, Assistant General, May and June; Miss Verry, Assistant General in the fall.

Kobe: Miss Topping, General, Miss Nixon Assistant General, (to begin work in the fall.)

Kyoto: Miss Ragan, General; Miss Crawford, Assistant General (to begin work in the fall.)

Yokohama: Miss Baker, General; Miss Allchin, Assistant General.

Miss Patterson has begun a new class in Domestic Science in the Tokyo association, which meets on Friday mornings. Many housekeepers are members of the class, and it is very popular.

Miss Matthew left on the 22nd for Osaka, and will be followed by Miss Kawai very soon. It is the hope of the National Committee that the Osaka association may begin regular association work in the fall of 1918 with a fine Committee shaping the affairs of the associa

同志社女學校生徒募集

●專門學部（英文科三年同豫科一年家政科三年）

●普通學部（五ヶ年高等女學校程度）

●尋常小學校卒業生ハ一年ニ入學ヲ許ス●入學申込期限四月八日限り

（規則入用ハ郵券貳錢ヲ要ス）

京都市上京區 同志社女學校

私立女子學院

本科五ヶ年
補修科二ヶ年

寄宿舍の設けありて懇切に監督す

麹町區上二番町三十三四番地 私立女子學院

求女中

○十六才より四十才位迄にて小學校卒業位の者を望む

四谷區東信濃町一〇 谷津

女子青年界第拾五巻第三號（毎月一回一日發行）

大正七年二月廿六日印刷納本　大正七年三月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

